

2020年度 春季国際画像シンポジウム

要旨集

- ▶ 学会長のご挨拶
- ▶ プログラム
- ▶ 要旨
- ▶ ZOOM 使用案内

◆ 招待の言葉 ◆

韓国日本語文化学会 会員の皆様

新型コロナウイルスの感染が続く中、季節はもう本格的な夏を迎えました。新型コロナウイルス感染症の世界的流行は今やわたしたちの日常の風景の多くを変えてしまい、いまだ予断を許さない状況にあります。これを受けて世界の多くの現場で「コロナ後」の変化と予測される未来像に関する議論も始まっています。こういった中、最近の日韓関係は前例のない厳しい状況が続いており、両国の親善と繁栄を願う多くの人々にとっては憂慮せざるを得ない状況であります。

このような状況下で、本学会は日本語日本学関連の学会としては初の試みである「オンライン学会」を開催することに至りました。コロナ禍の影響で多くの学会が夏季学術大会を見送る中、なんとか会員の皆様に研究と交流の場をお与えしたいと、常任理事会が何度も協議を重ねた末にこのような運びとなりました。何事も初めての試みで、私たち運営陣もどのような展開になるのか心配と不安が募る部分もあります。手慣れない運びで至らない所も多々あるとは思いますが、何卒会員の皆様のご理解とご協力の程をよろしく願い申し上げます。

なお、本日特別に海外からご参加くださる筑波大学の橋本修先生、千葉大学の阿部朋世先生、文教大学の蔣垂東先生に心から感謝を申し上げます。また、ご多忙の中、本日、ご祝辞をくださる真保洋駐韓日本大使館広報文化院一等書記官にもあつくお礼申し上げます。

教育、研究活動などでお忙しい中、企画発表と学術発表を担当して下さいます発表者ならびに討論者のみなさまにも深く感謝いたします。企画発表と学術発表において活発な討論が行われますことをご期待いたします。多数の会員の皆様が、本オンライン学術大会に積極的にご参加くださいますことを心よりお待ち申し上げます。本学会のためご尽力くださっています牟世鐘編集委員長、権赫仁総務理事をはじめとする常任理事のみなさま、林始恩事務局長にも感謝いたします。

今日一日が私たち研究者にとりまして、研究と交流の場を広げられる、有益な時間になりますようお願いしております。最後になりましたが、本日の学会の成功と会員の皆様の学問のご発展ならびにご健勝をお祈りいたします。

6月 5日

韓国日本語文化学会会長 朴 蕙 成

韓國日本語文化學會

2020年度 春季国際画像シンポジウム

● 日 時：2020年 6月 13日(土) 12:00~18:00

● 使用プログラム：ZOOM

(<https://us02web.zoom.us/j/4110896961?pwd=Nm9yazNQd0tvblRrTm5ISE4zYjdCCQT09>)

▶ 学会の日程 ◀

* 12:30~13:00 入場

* 13:00~13:20 開会式 司会：權赫仁（総務理事・光云大）

開会辞：朴蕙成(会長・ハンバツ大)

大会紹介：牟世鍾(大会運営委員長・仁荷大)

祝辞：真保洋(駐韓日本大使館 広報文化院 一等書)

* 13:20~17:30 学術発表会 文化・語学分科

文化分科 - 司会：片龍雨(全州大)

語学分科 - 司会：李成圭(仁荷大)

* ZOOM 運営/管理 尹榮珉(情報理事・延世大)

<文化> 第1発表場(Group1)

座長：朴蕙成(ハンバツ大)

時間	発表者	発表題目	司会者	page
13:20 ~13:45	金學淳 (忠南大)	疫病と妖怪	片龍雨 (全州大)	6
13:45 ~14:10	高永爛 (全北大)	病で読む江戸時代 -西鶴浮世草子を中心に-		11
14:10 ~14:35	柳攻勳 (高麗大)	夏目漱石をインフルエンザで読み直す -「琴のそら音」におけるインフルエンザの象徴性を中心に-		20
14:35 ~15:00	片龍雨 (全州大)	歌舞伎における疾病と薬		27
15:00 ~15:20	総合討論 金孝順(高麗大)・琴榮辰(韓國外大)・崔泰和(群山大)・杉本章吾(高麗大)			

<言語> 第2発表場(Group2)

座長：鄭惠卿(世宗大)

時間	発表者	発表題目	司会者	page
15:30 ~15:55	橋本修 (筑波大) 安部朋世 (千葉大)	連文か複文か	李成圭 (仁荷大)	47
15:55 ~16:20	蔡盛植 (高麗大)	‘お名詞文’の文法的特徴と 敬語表現としての位置づけについて		55
16:20 ~16:45	文彰鶴 (韓國外大)	日韓語の意志形の疑問化から捉え直す意志形の特質 -「意志決定の段階説」を中心に-		57
16:45 ~17:10	蔣垂東 (文教大)	ハ行子音歴史的資料としての『唐音譜』 -福州音を中心に-		63
17:10 ~17:30	総合討論 井口有子(仁荷大)・野田高広(啓明大)・張根壽(祥明大)・權景愛(韓國外大)			



文化



1

📄 発表の目的



今まで人類は、国家中心の医療の発展によって伝染病を退治してきたが、今回のコロナ19は、大きな社会的な変革をもたらしている。



江戸時代に流行した疫病退治の妖怪を探し、疫病退治の妖怪とその絵の特徴と意義について論じる。



前近代、日本における疫病との文化戦争を考察し、江戸の大衆はどう疫病と向き合って心理的に克服したかを中心にして分析を行う。

2

1 絵巻と疫病

1 『春日権現験記』の疫鬼



- 春日明神に関する56個の霊験談を記録した縁起の絵巻
- 春日明神の霊験談のみならず、興福寺の立場からみた唯識論の公徳、『法華経』、『大般若経』に関する話
- 打ち出の小槌を腰につけている疫鬼が家を除く
家の中の老人は血を吐き、薬が用意されている

3

1 絵巻と疫病

2 『融通念仏縁起絵巻』の疫病



- 融通念仏を始めた良忍の業績と念仏の公徳に関する説話を記録した絵巻
- 疫病の神々は馬の骨を頭につけたり、鶏の頭をしたり、動物の形をしている
- 動物の怨霊を家を訪問する疫病の神として表現
妖怪と疫病の神を様々なキャラクターとして描く

4

2 疫病退治の妖怪

1 アマビエ



- 1846年4月中旬と記された瓦版に書かれているもの
- ある役人の前に現れて、「当年より6年は豊作となるが、もし流行病が流行ったら人々に私の写しを見せるように」といって海中に没したという。
- 病気や豊凶の予言をし、その絵姿をもっていれば難から逃れられるという妖怪

5

2 疫病退治の妖怪

2 件(くだん)



- 身体は牛だが、顔は人間という面妖な姿をしている人間と牛との間で生まれたという牛小屋の妖怪
- 生まれてすぐ予言をし、言い終えたとすぐに死んでしまう
- 予言の内容は災害や疫病の流行といったものが多く、社会の異変があるときに現れる
- その予言は絶対に外れることがないという

6

2 疫病退治の妖怪

3 神社姫



- 人魚の類で、海に現れたアマビエなどと同じ類
- 大きさは約6m、人面で頭に角のようなものがある
- 見つけた者に向かって、「我は竜宮よりの使者神社姫というものなり。当年7年は豊作だが、虎狼痢(コレラ)という流行病が発生する。しかし我が描いた絵図をみればその難を免れ、さらに長寿を得るだろう」と語ったという

7

2 疫病退治の妖怪

4 クダ部



- 神社姫の類として、好事家の作り話での妖怪
- 立山に採薬を生業とした男がおり、あるとき山に入ると
- 人面獣身の山の精が現れて、「私は歳久しくこの山に住めるクダベという者なり。今年より35の間、原因
- 不明の病気が流行る。いかなる薬も効かぬが、私の姿を写したものを一度見れば、必ずその災難から逃れられるであろう」という

8

2 疫病退治の妖怪

5 白沢(はくたく)



- 本来は中国の霊獣で、悪病を払う妖怪
- 日本での白沢は獺(ばく)と混同されていたようで、邪気や悪病を払う縁起のよいものとして、画や像をお守りとした
- 悪病を払うということから、かつては漢方薬を扱う店にその像がよく置かれていた。その姿は人面をした獺のようなもので、9つの目を有している。

9

まとめ

- ▶▶ 江戸時代の妖怪文化における、疫病と流行病を払う妖怪は、社会的な不安と災難のときに流行した。
- ▶▶ 怪が病を抑えるという発想は、ただの迷信ではなく、当時、大衆の心理的な安定をもたらした。
- ▶▶ 江戸時代の物語では、疫病と伝染病を払う主体が、日本の伝統的な英雄に変わることもあり、最終的に疫病退治の妖怪は大衆の不安感を軽減させる文化的な装置であった。

10

病で読む江戸時代

- 西鶴浮世草子を中心に -

韓国日本語学会 春季大会 2020. 6. 13

全北大学校 日本学科 高永爛

1

1. 始めに

> 江戸時代の文学作品は医薬を素材にすることが多い。

—拙稿(2019)「江戸時代小説に見える医師の様相小考-『笑談医者気質』を中心に-」

>> 医薬に関する江戸時代の社会的関心が大きかった。

2

1. 始めに

例：仮名草子『竹斎』(1623)は藪医者竹斎が京都から江戸への紀行の途中、患者に出会い治療を施す場合もある。しかし、そのほとんどの内容は治療それ自体よりも、世帯風刺と描写に焦点が置かれている。

－矢野公和(1980)「竹斎－世を批評するスタイル」

－矢野公和(1981)「風化の凝視者－竹斎序説－」

3

1. 始めに



4

1. 始めに

> 江戸時代の病に関する研究 1

酒井シヅ(2002)『病が語る日本史』講談社, pp.111-120.

ー前近代イギリスではかぜはcold, すなわち寒さのためにもたらされると考えられた。

ー東洋(漢方)ではかぜは風によってもたらされると考えられた。

ー江戸時代流行したかぜに当時流行った演劇、相撲選手や歌謡にならってお駒風、お七風、谷風

5

1. 始めに

>> 江戸時代の病に関する研究 2

新村拓(2013)『日本医療史』, 吉川弘文館, pp.108-137.

当代を通じて際立った病の傾向として、疝気と流行病(疫病)を挙げることができる。"疝気"は腹部に痛み(疝痛)をともなうため、難病視され、治療に種々の工夫が施されてきているが、この時代には鍼術や艾灸による治療が盛んであった。(中略)加持祈祷と施薬を巧みに併用して、治病の実績をあげ、後代にまでその存在を示し続けた修験(同行=山伏)の医療行為の成果は、やはりその本草(薬物)知識の豊富さにあったとみられる。

6

1. 始めに

>江戸時代の文学、殊に現実を写實的に描いたとされる井原西鶴の作品を中心に、病がどのように描かれ認識されているのか見る！

>コロナ19が蔓延する現在、人間が病と社会をどう考えていくべきなのか、示唆点を得たい。

7

2. 西鶴の描く病

2-1. 病と仏教的治癒

『西鶴諸国ばなし』(1685) 2-7

両村の者が大勢、用水を引く大事な樋に群がり、庄屋年寄も一命を捨てて争い、あわや血の雨を降らそうとした時であった。日がかんかん照っている最中に太鼓が一つ鳴り、黒雲が舞いさがって、赤禪をした火雷が降りて来た。そして村人にこんなことを言った。『まず喧嘩をやめて、俺の言うことを聞きなさい。久しく雨を降らさないで、村々がこんなに困っているのは、俺たちの仲間の仕業だ。このごろは、水力神鳴どもが若気の至りから、夜這にたわむれて、もったいないことに腎水を減らし、気にかかりながら、こんなに日照りが続いたのだ。お前さんたちの畠でできた牛蒡を送って貰えるなら、間もなく雨を降らせることを約束する』と言うのであった。

8

2-1. 病と仏教的治癒

又の夜になる事を待兼、人には語らず、契を籠て、いまだ二十日もたたぬに、我は覺ず、次第にやするを、念比なるくすしのとがめて、脈を見るに、おもふにたがはず、いんきょかどうの、気色に極まり、「さりとは頼みすくなき身上なり、日比はたしなみ深く、見へたまふが、扱はかくし女のあるか」と、尋ねければ、(中略)「是ぞ世に伝へし、紫女といふ者なるべし。是におもひつかるるこそ、因果なれ。人の血を吸、一命を取りし事ためし有。兎角は此女を切たまへ。さもなくては、やむ事なし。又養生のたよりもなし」と、(中略)ぬきうちたたみかすれば、其まま消かかる、面影をしたひ行に、橘山のはるか、木深き洞穴に入れる。其後も心を残し、あさましき形見へければ、国中の道心者あつめて吊ひけるに、影消て伊織も、あやうき命を。(『西鶴諸国ばなし』3-4)

9

2-1. 病と仏教的治癒

母の親の才覚にて、あそからぬ事を取りいそぎ、縁付の手道具までも、残所もなく拵へ、あなたこなたの云入も合点せず、都の花をと、聳見競し折ふし、風のここちと、なやみけるに、京中の薬師に掛て、さまざまかんびやうすれども甲斐なく、惜や眠がごとく世をさりける。二親のなげき限りもなし。(中略)何とも見分けがたき形、あしもとへ踏当、是はとおどろき、燃さしをあげて見れば、さて娘御の、火葬を見るに、早桶たきぎの外へ、こけて出けるに、気をつけ、彼死人を見れば髪かしらは焼けても、風情はかはらず、いまだ幽かに、いきづかひのあれば、木の葉のしづくを口にそそぎ、(中略)

10

2-1. 病と仏教的治癒

脈にたのみあれば、不断のいしゃを、よびに遣し、はじめを語りて、しのびしのびに薬をもれば、次第に目をあき、足手をうごかし、じねんに見ぐるしき事もやみぬ。半年もすぎて、様子をきけども、かつて物をいはねば、現の人にあへるごとし。是を薬師も合点ゆかず、「占はなしても見給へ」と、阿部の何がしをよびて、八卦を見るに、「此人何程、くすりをつくしたまふとも、聞事更にあるまじ。子細は、親類中に、うき世になき人の、弔ひ事をしたまふゆへぞ」と、見通す様にぞ申ける。(中略)かくて三年もすぎて、むかしに替らず、美女となりて、つねづね願ひ通り、十七の十月より、身を墨染の衣になし、嵐山の近なる里に、ひとつ庵をむすび、後の世をねがひける。(『西鶴諸国ばなし』3-2)

11

2-2. カルマ(業)としての病

目玉の林内といふ者、世をわたる業もおおきに、冬のあらしをもちとはず、あたりの若者をかたらひ、明暮鳥の命をとる事、かぎりもなし。つれそふ女房は、やさしくも、「此事とまれ」と、異見する事たびたびなれどもやめず。是かなしく、独ねられぬままに、世の無常をくはんずる時、寝させ置たる、二人の子共、現に声をあげて、びくびく身のうごく事、三十七度也。次第おそろしくなると、男を待兼るに、(中略)「今夜の鳥の数、三十七羽有べし。」(中略)駕籠をあけて見るに、しめ鳥数違はねば、林内横手をうつ。宵より子どもが、おどろくありさまを語れば、身ふるいひして、是より万の道具を塚につき、色々くやうなし、今に鳥塚とて残れり。(『西鶴諸国ばなし』4-4)

12

2-2. カルマ(業)としての病

此里のかたはらにとへいろう、丸之介といへる浪人ありしに、所作すべきわざなく、たくはへしものみなになし、人しれぬ薬を売りしに、家中の端半女のいたづらに妊めるをおろす名誉を得、もとでわずかなるに薬代に金銀をおほく取て、渡世とするうちに、一人の娘をもふけぬ。成人するにしたがひ器量人にすぐれ、十四才の時、似合敷所ありて祝言ことすみける。(中略)盃の浪は越ともといはひたるも、其夜の明るをまちかねて里にをくられけり。漸四、五年のうちに五所さらされて帰るは、いまだ縁のきたらざるものと悔し。明の春は疫病はやり、丸之介夫婦相はてしより、

13

2-2. カルマ(業)としての病

(中略)相手はかはる新枕、其身には夢にもしらざるところに、いづくともなく此女の前後より、胞衣かぶりたる赤子数百人惣身にひしと取つき、水泳ぐまねして立ならびたる見るより、身の毛よだち、中々傍によるまでもなく、日ごろの恋たちまちさめて、夢もむすばず、(中略)大社御神前にて、『其謂を告げしらしめ給へ』と祈りけるに、夢の中に語らせ給ふは、『汝が親のなせる罪の酬きての寝姿』のありさまをくはしく教給ふに、(中略)いよいよ後世のいとなみして、彼これの菩提を祈らんと、此老僧に頼みて剃髪するにて侍るとかたりけるを、(『懐硯』4-3)

14

2-3. 医学的現実の共有と病の克服

『武道伝来記』(1687)5-1

愚暗の玄芳、硯をならして、脈来、数大、此陰虚火動之病也。(中略)所以然者、火妄動則、燎物疾之象也。(中略)舌生白胎者、胃中有寒、丹田有熱也。夜不寝者、由子盗母氣、心虚而、神不安也。

15

2-3. 医学的現実の共有と病の克服

福田安典(2016)『医学書の中の「文学」』笠間書院, p.100.

今日的な診断カルテとは様相を異にし、他の医師の失敗を記すことが、江戸期の医案の信頼性を担保するものであって、そこに醜く悪く書かれたライバル医師達も抗弁することができなかった。これが「医道のはじまり」、医師たちのルールであった。つまり、西鶴の『武道伝来記』はこの医案における「医道のはじまり」を前提に描かれたものと思われるのである。ゆえに、何よりも必要なものは、他医の欠点と、それを記す漢文の『書付』であったのである。

16

3. 終わりに

> 一連の西鶴が描く病と信仰、仏教的解釈、医学的現実とは病を理解し克服しようとする多角的努力。

> コロナ19に曝されている現在の人類と病の関係も酷似。

> しかし、信仰や仏教的解釈が果たして人類の根本的不安を解消できるだろうか。

> 医学的、客観的事実に向かい合うべき現在。

17

ご清聴ありがとうございました。



18

夏目漱石をインフルエンザで読み直す

「琴のそら音」におけるインフルエンザの象徴性を中心に

柳 政勲(高麗大)

2020年6月13日土曜日

1

目次

1. はじめに
2. 「琴のそら音」の叙事構造
3. 「琴のそら音」におけるインフルエンザ
4. インフルエンザ、疾病、近代
5. おわりに

2



- 夏目漱石(なつめ そうせき、1867年2月9日(慶応3年1月5日) - 1916年(大正5年)12月9日)
- 「琴のそら音」は、1905年『七人』に発表され、後に『漾虚集』(1906年刊)に収められた夏目漱石の短編小説である。『漾虚集』には「琴のそら音」以外にも、「倫敦塔」、「趣味の遺伝」、「幻影の盾」など、主に漱石初期の浪漫的な傾向を表す作品が多数収録されており、先行研究においては江藤淳の言うところの漱石の「低音部」や「深淵」が垣間見られるものとして研究の対象になってきた傾向がある。江藤は、『漾虚集』の諸作品から「生」そのものに対する殆ど生理的な嫌悪の感情を読み取って、それを漱石の「低音部」もしくは「深淵」と名付けた。その中で「琴のそら音」は「低音部」や「深淵」に属する作品の中でも注目される機会が乏しく、副次的に言及されることが多かった。

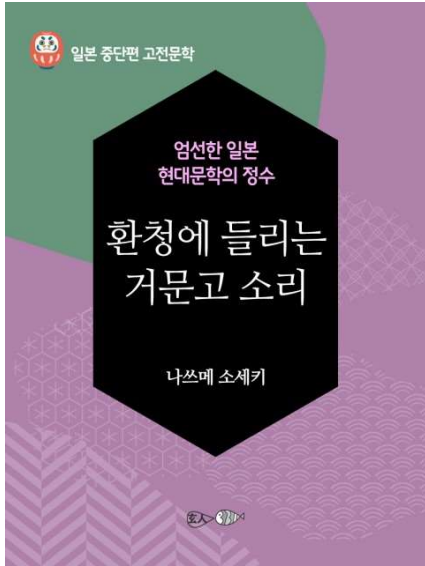
3

「琴のそら音」1905年 『漾虚集』1906年



4

「琴のそら音」の韓国語訳



「런던탑(倫敦塔)」	「제국문학(帝國文學)」	1905년(明治38) 1월
「칼라일 박물관(カーライル博物館)」	「학당(學堂)」	1905년(明治38) 1월
「해로행(薩羅行)」	「중앙공론(中央公論)」	1905년(明治38) 2월
「환영의 방패(女影の盾)」	「호토토기스(ホトトギス)」	1905년(明治38) 4월
「유령의 소리(琴のそら音)」	「칠인(七人)」	1905년(明治38) 5월
「하룻밤(一夜)」	「중앙공론(中央公論)」	1905년(明治38) 9월
「취미의 유전(趣味の遺傳)」	「제국문학(帝國文學)」	1906년(明治39) 1월

소세키의 단편소설 가운데서도 특히 위의 작품들은 영국 유학 체험과 영국 유학에서 느낀 기분을 다양한 토대로 썼다. 각 작품들의 소재는 다르지만 환영(女影)과 주술(呪術), 그리고 유전(遺傳)의 세계를 찾아볼 수 있다. 『유령의 소리』는 1905년 5월 『칠인』에 수록된 단편 소설로 당시 대학교육을 받은 근대 지식인으로 살아가고 있는 주인공 「나(余)」와 구식의 사고방식으로 미신을 신봉하는 「활엽(葉彦)」의 미신에 대한 인식 차이가 재미를 한층 돋워준다.

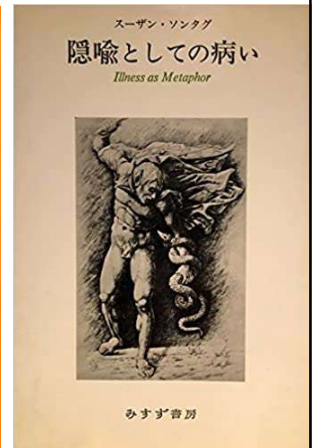
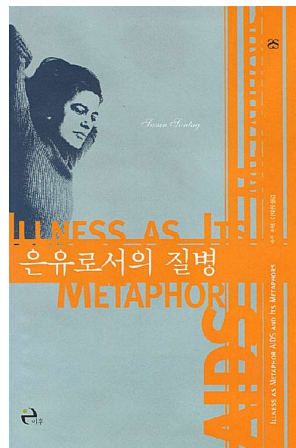
선행연구를 점검해보면 후지카와 요시유키(富士川義之)는 『유령의 소리』는 일상에서 유령과 같은 것을 인식하기 힘든 비일상적인 소재를 취한 피담이기로 독자들에게 소세키가 보여준 가장 리얼리티한 인간 저변의 공포스러움을 느끼게 해준 작품이라고 논했다. 사토우 유우코(佐藤裕子)는 『유령의 소리』는 18세기말 유럽에서 유행하고 있던 공포소설의 영향을 받은 작품이다. 소세키는 공포를 합리화시켜 작품에 표현하고 있으며, 「そら音」라고 하는 제목이 표시하는 것처럼 실제로는 아무것도 일어나지 않는데 일어난 것 같은 기분이 든다고 하는 의식을 고조시킴으로써 인간에게 공포라고 하는 것이 어떻게 증폭되어 가는지를 보여준 소세키만의 기법이 잘 나타난 작품이라고 분석했다.

신윤주(2010) <공간 이동에 따른 「나, 余」의 미신 인식의 변화 고찰 — 나쓰메 소세키의 유령의 소리, 琴のそら音 를 중심으로 —>

5

1.はじめに 研究の目的と背景

- 인플루엔자を含め、神経病、ハンセン病など、明治期の日本において社会的な話題となっていた「近代の疾病」が持つ意味合いについて考察。
- 포스트코로나가人口に膾炙する現状を踏まえ、日本の近代文学作品のなかで疾病が何かの隠喩として表れたことを検討することの意義。



스ーザン·손타그(1982)『隱喩としての病い』
みすず書房

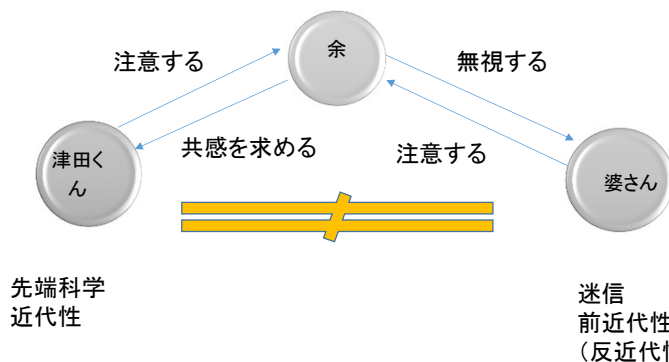
6

1. はじめに 先行研究

- ・ 主人公の「余」が持つ婚約者に対する期待と不安を中心に分析し、彼女は本当に「余」を愛しているのかという愛の強要観念の隠蔽として読む論
松本良太「隠蔽された愛の強要観念—夏目漱石『琴のそら音』論」『金沢大学国語国文』37号、金沢大学国語国文学会、2012年3月。
 - ・ 死を文学的なロマンティシズムとして認識する動因が科学の持つ合理性にあるという逆説を通して、科学と文学の表裏一体的結合をみる論
神田祥子「科学」という信仰—夏目漱石「琴のそら音」を視座として」『東京大学国文学論集』5号、東京大学文学部国文学研究室、2010年3月。
 - ・ 「余」が「幽霊という狂気」に囚われながらも正常へと帰着するという論
萩原佳子「幽霊という狂気—漱石「琴のそら音」」『九州女子大学紀要』39巻3号、九州女子大学文学部人間文化学科、2003年2月。
 - ・ インフルエンザという要素を中心に「琴のそら音」を文学史の中に位置づけようとする論
福井慎二「漱石『琴のそら音』論—インフルエンザの近代文学史」『河南論集』6号、大阪芸術大学芸術学部文芸学科研究室、2001年3月。
 - ・ 「余」と「津田」の関係に注目し、二人の友情が深まる過程として捉える論
宮園美佳「夏目漱石『琴のそら音』考—「余」の見た「幽霊」のもたらしたもの」『人文論究』46巻3号、関西学院大学文学部、1996年12月。
- などが見られる。

7

2. 「琴のそら音」の叙事構造



- ① 余が津田くんを訪問し、婆さんについて非難する。
- ② 津田くんはインフルエンザで死んだ女の幽霊話を聞かせながら、むしろ余に注意する。
- ③ 余は帰る途中に「死」を思い浮かべることによって不安と恐怖を感じる。
- ④ 不安と恐怖はインフルエンザにかかった婚約者が死ぬかもしれないという妄想へとつながる。
- ⑤ 婚約者が元気であることを確認し、余の愛は深まる。

* 帝国大学を卒業し、エリート生活をしている「近代的な余」が重なる事件によって揺らぐ過程を描いている。

8

3. 「琴のそら音」におけるインフルエンザ

「ところへもって来て僕の未来の細君が風邪かぜを引いたんだね。ちょうど婆さんの御誂おあつらえ通りに事件が輻輳ふくそうしたからたまらない」

「それでも宇野の御嬢さんはまだ四谷にいるんだから心配せんでもよさそうなものだ」

「それを心配するから迷信婆々ばあさ、あなたが御移りにならんと御嬢様の御病気がはやく御全快になりませんから是非この月中じゅうに方角のいい所へ御転宅遊ばせと云う訳さ。飛んだ預言者よげんしゃに捕つらまって、大迷惑だ」

「移るのもいいかも知れんよ」

「馬鹿あ言ってら、この間越したばかりだね。そんなにたびたび引越しをしたら身代限しんだいかぎりをするばかりだ」

「しかし病人は大丈夫かい」

「君まで妙な事を言うぜ。少々伝通院の坊主にかぶれて来たんじゃないか。そんなに人を威嚇おどかすもんじゃない」

「威嚇おどかすんじゃない、大丈夫かと聞くだ。これでも君の妻君の身の上を心配したつもりなんだよ」

「大丈夫にきまつてるさ。咳嗽せきは少し出るがインフルエンザなんだから」

「インフルエンザ？」と津田君は突然余を驚かすほど大きな声を出す。今度は本当に威嚇おどかされて、無言のまま津田君の顔を見詰める。

「よく注意したまえ」と二句目は低い声で云った。

9

3. 「琴のそら音」におけるインフルエンザ

「いや実はこう云う話がある。ついこの間の事だが、僕の親戚の者がやはりインフルエンザに罹かかってね。別段の事はないと思って好加減いかげんにして置いたら、一週間目から肺炎に変じて、とうとう一箇月立たない内に死んでしまった。その時医者の話さ。この頃のインフルエンザは性たちが悪い、じきに肺炎になるから用心をせんといかんと云ったが——実に夢のようさ。可哀かわいそうでね」と言い掛けて厭いやな寒い顔をする。

「へえ、それは飛んだ事だった。どうしてまた肺炎などに変じたのだ」と心配だから参考のため聞いて置く気になる。

10

3. 「琴のそら音」におけるインフルエンザ

犬の遠吠が泥棒のせいときまるくらいなら、ことによると病気も癒なおっているかも知れない。癒っていてくれれば宜しいかと御母さんの顔を見て息を呑み込む。

「ええ悪いでしょう、昨日きのうは大変降りましたからね。さぞ御困りでしたらう」これでは少々見当けんとうが違う。御母さんのようすを見ると何だか驚いているようだが、別に心配そうにも見えない。余は何となく落ちついて来る。

「なかなか悪い道です」とハンケチを出して汗を拭ふいたが、やはり気掛りだから「あの露子さんは——」と聞いて見た。

「今顔を洗っています、昨夕ゆうべ中央会堂の慈善音楽会とかに行き遅く帰ったものですから、つい寝坊をしましてね」

「インフルエンザは？」

「ええありがとう、もうさっぱり……」

「何ともないんですか」

「ええ風邪かぜはとっくに癒なおりました」

11

3. 「琴のそら音」におけるインフルエンザ

- インフルエンザによって「余」は「死」を思い浮かべ、不安と恐怖へと落ちる。「琴のそら音」において「死」を喚起するところは、

1. インフルエンザにかかって死んだ女の幽霊話

2. 長屋の貧民たち(「貧民に活動はつき物である。働いておらぬ貧民は、貧民たる本性を遺失して生きたものとは認められぬ。余が通り抜ける極楽水の貧民は打てども蘇み返る景色なきまでに静かである。——実際死んでいるのだらう。」

3. 幼児の死体(「昨日生れて今日死ぬ奴もあるし」と一人が云うと「寿命だよ、全く寿命だから仕方がない」と一人が答える。(중략)「昨日生れて今日死ぬ奴もあるし」と余は胸の中で繰り返して見た。昨日生まれて今日死ぬ者さえあるなら、昨日病気に罹って今日死ぬ者は固よりあるべきはずである。」

4. 婚約者のインフルエンザ

「死」を喚起することによって、「余」は最後に「気のせいかその後露子は以前よりも一層余を愛するような素振に見えた」と感じる。

12

4. インフルエンザ、疾病、近代

- インフルエンザから「日本の近代」を喚起することは可能か？
 - ハンセン病、性病など、慢性伝染病はその起源が東アジアとされるなど、西洋人による疾病のオリエンタリズムを代表する事例(『疾病の社会史—東アジア医学の再発見』)
 - 病気は常に社会が墮落したり不当だという事実をリアルに挑発してくれる隠喩(『隠喩としての病い』)
 - コンピューターウイルスとコンピューターワクチンという表現が示すように、疾病の隠喩は技術と社会の発展の流れの中で新しい様相を提示してくれる(「疾病の浪漫と恐怖」)

- 夏目漱石の近代とインフルエンザの近代
 - 日露戦争期における漱石の時代認識について尹相仁は漱石が「自己本意の近代化を力説」するようになったと主張(『文学と近代と日本』)
 - 「琴のそら音」において「余」がアイデンティティーを確保する過程とインフルエンザという契機

片龍雨(全州大学校)

歌舞伎における疾病 と薬

1

1. はじめに

2

宝と病の共通点

- 歌舞伎の葛藤の要因

名剣 村雲の宝剣、十束剣、(中略) 此外猶あるべし。何れも目前に奇特あり。(中略) 故に紛失すること、毎日絶ゆる間なしと云。

名玉 (中略) 名剣の奇特に同じく、是も紛失したがる。『戯場訓蒙図彙』(1803刊)

とてより百ん底のあり首
捕へん南島の故実(中略)
ともありはしく、御向のそれい
ふこの名は而ものわらび
そへ旅路の巻え大妙業し
まふりて切株ありしん又
切株をくんとくま
ふりて入るなり

3

2. 新しい病・古い薬

4

新しい病

新左衛 左様でござる。先達ておかゝりな
された、勢州石楽師の名医と承わったが、
これでも御全快はござらぬかな。

左内 久々、木屋町の貸座敷へ呼んで、
療治いたしたれど、思わしふもござらぬ。
一体の病症が**神経病**と申して、とかく両
腕両足の、筋骨を痛めますて。

神経 : 『解体新書』(1774刊)の造語 『染繻竹春駒』(1814)

5

蘭学の影響 『医模提綱』

- 神経外傷ニ由テ断絶シ、或ハ病毒シテ靈液通ゼザレバ、其害ヲ被ル神経ノ循行スル部位ニ限テ頑麻不随ヲ為スト。相以テ知覚挙動ヲ失フニ至テハ其理全ク同ジ。

宇田川玄真「うだがけんしん」
▽明和6(1769)〜天保5(1834)
蘭方医。横濱。伊勢国の安岡某の子。蘭学
医・津山藩医学士田川玄隣、蘭学者大槻玄沢に
学ぶ。のち蘭方医杉田玄白の娘婿となるが、
離縁される。寛政9年(1797)〜玄隣が亡
くなるまで養子に入った。文化10年(1813)、
幕府の蘭書和解掛を拝命。シヨメール著「家
庭百科事典」の翻訳に携わる。著書に「解体
新書」よりわかりやすいと評判になった「和
蘭内景」医模提綱」などがある。天保5年(一
八三四)十一月四日没。享年六十六。墓は岡
山県津山市の泰安寺。

歴史群像編集部(2010)『全国版 幕末維新人物事典』

悉ク瘳シテ睡寐ヲ為スナリ。假令バ神經外傷ニ由
テ断絶シ。或ハ病毒シテ靈液通ゼザレバ。其害
ヲ被ル神經ノ循行スル部位ニ限テ頑麻不随ヲ為
スト。相以テ知覚挙動ヲ失フニ至テハ其理全ク同
ジ。入睡寐スルノ用ハ睡中ニ於テ暫ク靈液ノ流通

6

古い薬

新左衛 しからば腫物類でも、疵でも無く、
左内 たゞ筋骨をいためての難儀、さるに
依て、御所方の名医の申さるゝには、酉
の年、年月日時の女の生血と、天機の一
薬を服すれば、立ち平癒と承われど、
取り得難きとの妙薬。

新左 ハテ、むづかしひ薬も、あればあ
る物でござるな。

7

『戯場訓蒙図彙』

肝 是は難治の病には大妙薬也。十二支
のうちの生れによりて功能ありと
いふ。又幻術をくじく薬ともなる。
此ごとく詭向の生れは、たくさん
なさそふな物なれ共、悪ぢぢいか
悪ばばアなどに頼めば百両の褒美
金で直に手に入るなり。

肝 是は難治の病には大妙薬也。十二支のうちの生れによりて功能ありといふ。又幻術をくじく薬ともなる。此ごとく詭向の生れは、たくさんなさそふな物なれ共、悪ぢぢいか悪ばばアなどに頼めば百両の褒美金で直に手に入るなり。

8

3. おわりに

9

歌舞伎における宝と病

- 登場人物の間での葛藤と解消
 - 宝
 - 定められた世界の中でその種類が決められている。
 - 時代物によく使われる。
 - 病
 - 蘭学の流行りでその種類が増えている。
 - 時代物と世話物の区別がない。

10

역병과 요괴

-에도(江戸)시대 전염병 퇴치를 위한 문화적 장치-

김학순(충남대)

1. 들어가며

2019년 겨울, 중국을 시작으로 전 세계적으로 유행하기 시작한 코로나바이러스로 수백만 명이 감염되고 수십만 명이 목숨을 잃었다. 감염 속도가 빠르고 백신이 개발되지 않아 언제 종식될지도 모르는 상황에서 인류는 불안감 속에서 살고 있다. 국내의 경우도 마스크와 소독제 품절, 해외출입국 금지, 자가 격리, 재택근무, 온라인 수업, 확진자 동선 공개, 일상적 방역, 사회적 거리 두기 등, 지금까지 겪지 못했던 새로운 사회적 변환기를 맞이하였다. 또한 이번 경우에는 의료 시스템이 잘 구축되어 있는 선진국도 피해갈 수 없는 재앙이 되었다. 이전 세기에도 천연두, 페스트, 스페인독감, 말라리아와 같은 전염병이 전 세계적으로 유행하였다. 하지만 백신과 치료법 발견으로 대다수의 전염병과 바이러스에 의한 질병은 극복되었다. 이처럼 인류는 이데올로기, 자국 중심주의, 종교 갈등, 자원 문제 등에 의한 국가 간 전쟁뿐만 아니라, 질병과도 끊임없는 전쟁을 해 왔다.

현대에는 치사율이 높은 바이러스 질병과의 전쟁에 정부와 지자체가 적극적으로 개입하여 의료, 보건 분야에 힘을 쏟고 있다. 하지만 정부와 지자체의 노력뿐만 아니라 전 국민의 사회적 거리 두기 시책과 같은 개인이 지켜야 할 윤리적 문제로도 확대되었다. 눈에 보이지 않는 바이러스와의 전쟁은 정부 기관의 적극적 개입과 통제를 받으며 개인위생 관리, 자가 격리와 사회적 거리 두기, 감염자 관리와 전문 의료 제공과 같은 정책, 제도적인 측면이 강조되고 있다.

그렇다면 일반 대중들은 이러한 전염병을 어떻게 극복해 왔을까. 위생, 백신, 의료와 같은 과학적 인식은 근대 이후에 발생한 것으로 그 이전에는 전염병은 역병으로 부르며, 현재의 코로나바이러스와 같이 인류에게 큰 피해를 주었다. 이러한 역병을 퇴치하기 위한 노력과 기원을 문화의 틀 안에서 표출했던 시대가 일본의 에도(江戸)시대이다. 에도시대의 대중들은 역병을 일으키는 존재를 신으로 생각하며 그들을 위한 마쓰리(祭り)를 하고, 신사를 세워 기려왔다. 역병이 유행할 때에는 역병 퇴치 요괴 그림을 그려 부적으로 사용하며 심리적으로나마 역병 확산을 막으려 하였다. 본 발표에서는 전근대 일본 에도시대에 유행했던 역병 퇴치 요괴와 그 특성에 대하여 살펴보고자 한다. 이러한 역병 퇴치 요괴를 통하여 당시 유행하던 역병과 역병을 극복하기 위한 전근대 일본인들의 모습도 알 수 있다. 공중 의료가 발전하지 못했던 전근대 일본에서는 전통적으로 내려오던 요괴를 통하여 역병을 심리적으로나마 극복하려 하였다. 역병 퇴치 요괴의 전통을 바이러스와의 문화전쟁으로 보아 그 특징과 의의에 대하여도 논하고자 한다. 에도시대의 역병에 대한 대처는 의학, 의료적인 측면에서 보면 현대에 비해 월등히 떨어지지만, 심리적인 불안과 동요를 극복하고자 한 문화적 방법은 현대에도 시사하는 점이 크다. 이처럼 본 논문에서는 에도시대 대중들이 전염병과 바이러스에 의한 질병을 어떠한 방식으로 극복하였는지, 역병과의 싸움에 어떠한 요괴들을 활용하여 문화콘텐츠를 생성하였는지에 대하여 논하고자 한다.

2. 역병 퇴치 요괴와 그림

『가스가곤겐겐키(春日権現験記)』(1309)에 보이는 역귀(疫鬼)는 허리에 나무망치를 차고 있다. 나무망치는 사람을 병들게 하고 우치데노고즈치(打ち出の小槌)와 같은 요술 방망이 역할도 한다. 『가스가곤겐겐키』는 후지와라(藤原)씨 가문의 번영을 기원하기 위해 가스가묘진(春日明神)에 관한 56개의 영험담을 기록한 엔기(縁起)의 에마키(絵巻)이다. 가스가묘진의 영험담뿐만 아니라, 고후쿠지(興福寺) 입장에서 본 유식론(唯識論)의 공덕, 『법화경(法華經)』, 『대아반경(大般若經)』, 정토교적 신앙에 관한 이야기를 기록하였다.¹⁾ <그림1>을 보면 집 지붕 위에 붉은색의 역귀가 집안을 엿보고 있다. 집 안의 노인은 입에서 피를 토하며 그에게 줄 약을 준비하고 있다. 집 옆에도 병으로 쓰러진 남성의 모습이 보인다.



<그림1> 『가스가곤겐겐키』 제 8축
역귀(疫鬼)

『유즈우넨부쓰엔기에마키(融通念佛縁起絵巻)』(1314) 역병(疫病)의 신들은 제각각의 모습이다. 요괴나 원령의 모습을 다채롭게 그리며 캐릭터로 표현하였다. 『유즈우넨부쓰엔기에마키』는 12세기 초, 유즈우넨부쓰(融通念佛)를 시작한 료닌(良忍)의 업적과 염불의 공덕에 대한 설화를 그린 에마키이다. <그림2>에 보이는 역병의 신들은 말 뼈를 머리에 달거나, 닭의 머리를 하는 등, 동물의 모습을 하였다. 동물의 원령을 집을 방문하는 역병의 신으로 표현하며



<그림2> 『유즈우넨부쓰엔기에마키』
역병의 신

아마비에(アマビエ)는 1846년 4월 중순에 기록된 가와라반(瓦版)에 수록된 역병 퇴치 요괴이다. 히고국(肥後国, 구마모토현) 바다에 매일 밤 빛나는 것이 있어 그곳의 관리가 가보니 아마비에라는 요괴가 나타났다. 아마비에는 올해부터 6년간 풍작이지만 만약 유행병이 돌면 사람들에게 자신의 그림을 보이라고 지시하고는 다시 바다로 들어갔다. 가와라반에는 머리카락이 길고 부리를 가진 인형과 같은 모습을 하고 있으며 히고의 관리가 그렸다고 한다. 유모투 고이치(湯本豪一)는 『메이지요괴신문(明治妖怪新聞)』에서 아마비에에는 아마비코(アマビコ)일 것이라고 한다. 아마비코는 가와라반, 그림이 들어간 신문에 보이는 요괴로, 아마비코(あま彦), 아마비코(天彦), 아바미코(天日子)로도 쓴다. 구단(件), 구다베(クダ部), 진자히메(神社姫)라고 하는 병이나 길흉의 예언을 하고, 그 모습의 그림을 가지고 있으면 화를 면할 수 있다는 요괴가 거의 같은

1) 日本古典文学大辞典編集委員会編(1983) 『日本古典文学大辞典』第1巻, 岩波書店, p.628.

것이라 할 수 있다. 아마비코의 기사는 다른 가와라반에 필사할 때, 아마비코로 잘 못 기록해 버렸다는 것이 유모토의 설이다.²⁾



〈그림3〉 아마비에

구단(件)은 외양간에 사는 요괴로 신체는 소이지만 얼굴은 인간으로 기묘한 모습을 하고 있다. 인간과 소와의 사이에서 태어났다고 전해진다. 태어나자마자 예언을 하고는 말이 끝나자 바로 죽어버린다. 예언의 내용으로는 재해나 역병 유행이 많고 사회에 이변이 생길 때 나타난다. 그 예언은 절대 틀리지 않는다고 한다. 1836년 가와라반에 등장하는 구단은 대풍작을 알리는 괴수로, 구단이라는 글자는 인변(人偏)에 소우(牛)로 되어 있다. 정직한 마음을 가지고 있어 증서 말미에 구단노고토시(件如, くだんのごとし)로 적는 연유이기도 하다. 그림을 걸어두면 집안은 번창하고 역병에 걸리지 않는다. 일체의 화를 면하고 대풍작을 이루는 참으로 축복의 괴수이다. 구단의 그림은 액운 퇴치의 부적 대신이기도 했다. 구단의 출현은 사회적으로 위기에 직면했을 때가 많으며 1836년은 덴포(天保) 대기근의 해이다. 간사이(関西)에서는 민중들의 봉기가 빈번히 일어나 사회불안이 높았던 시기이다. 또한 2차 세계대전 중에는 「전쟁이 끝나면 역병이 돈다」, 「대전쟁과 역병으로 국민의 대부분이 죽는다」 등, 구단의 예언이 거리에 유포되었다고 한다.³⁾



〈그림4〉 구단

인어의 모습을 한 진자히메(神社姫)는 1819년 히젠(肥前)국 해변에 나타난 요괴로 크기는 육미터 정도로 인간 얼굴에 뿔과 같이 것이 있다. 발견된 자에게 자신은 「용궁에서 온 사자로 올해부터 칠년간은 풍작이지만 콜레라(虎狼痢, コレラ)라는 유행병이 발생한다. 그러나 내 모습을 그린 그림을 보면 그 화를 피해 장수할 것이다」



〈그림5〉 진자히메

2) 村上健司編·水木しげる画(2005)『日本妖怪大事典』角川書店, p.21.

3) 앞의 책, p.126.

며 거창하게 말하였다.⁴⁾

구다베(クダベ)는 옛추(越中)국 다테야마(立山)에 약초를 생업으로 하는 자가 어느 날 산으로 들어가니, 인간 얼굴에 괴수의 몸을 한 산의 정령이 나타났다. 정령은 자신을 산에 오래 살아 온 구다베라 하며, 올해부터 삼십 오년간 원인불명의 병이 유행할 것이라 한다. 어떠한 약도 듣지 않을 것이며, 내 모습을 그린 것을 한 번 보면 반드시 그 재난에서 피할 것이라 한다.⁵⁾

하쿠타쿠(白沢, はくたく)는 본래 중국의 영험한 괴수로 『와칸산사이즈에(和漢三才図会)』에는 다음과 같이 기록되어 있다.(중략) 삼라만상(森羅万象)에 정통한 하쿠타쿠는 황제에게 중국에는 일만 천오백이십 종의 요괴가 있다고 가르쳤다. 황제는 화가에게 명하여 그것을 그리게 하여, 천하의 백성들에게 알려 그것들에 의한 해를 미연에 방지하려 했다고 한다. 그림은 하쿠타쿠에게 배웠기에 『하쿠타쿠즈(白沢図)』로 불렸지만 현재에는 전해지지 않는다. 일본에서는 하쿠타쿠는 바쿠(狛)와 혼동된 것으로 액운(邪氣)이나 악병(惡病)을 쫓는 운이 좋은 것으로 그림이나 조각상을 부적으로 하였다. 악병을 쫓는 것으로부터 일찍이 한방약을 다루는 상점에 그 조각상을 자주 두었다. 그 모습은 인간의 얼굴을 한 바쿠처럼 얼굴에 세 개의 눈이, 양쪽 옆구리에 각각 세 개의 눈이 있어 총 9개의 눈을 가지고 있다.⁶⁾



〈그림6〉 하쿠타쿠



〈그림7〉 구다베

4) 앞의 책, p.182.

5) 앞의 책, p.125.

6) 앞의 책, pp.260-261.

질병으로 보는 에도시대-사이카쿠(西鶴) 우키요조시(浮世草子)를 중심으로

高永爛(全北大)

1. 들어가며

에도시대 일본 문학 중에는 직간접적으로 의약을 소재로 한 작품이 눈에 띈다. 그만큼 사회적 관심이 의약에 주목되고, 동시에 의약에 대한 사회적 수요가 증가했다는 측면이 반영된 것으로 보인다. 현재 세계적인 코로나19 사태로 인류의 인식과 관습이 반강제적으로 변화해가고 있는 것은 주지의 사실이다. 이에 과거의 문학을 통해 인류의 미래를 예측하고 발전적인 공생의 방향성을 도모해 보는 것은 문학연구의 사회적 의무라고 생각하여, 본 연구는 에도시대 일본 문학에 묘사된 질병을 통해 시사점을 얻고자 한다.

돌팔이 의사가 주인공인 가나조시(仮名草子) 『지쿠사이(竹齋)』(1623)¹⁾는 도읍인 교토(京都)를 떠나 에도로 종자와 기행(紀行)하는데, 주목할 것은 이 작품 속에 구체적인 의약 일화는 의외로 눈에 띄질 않고 작품의 초점은 세대 풍속 묘사와 비판에 있다는 사실이다.²⁾ 한편 에도시대 질병에 대한 사회적인 인식은 다음과 같은 연구를 통해 엿볼 수 있다.

전근대 영국에서 감기는 cold, 즉 추위 때문으로 생각했었는데 동양에서는 바람(風)때문으로 생각했었다. 에도시대 이전에는 풍은 신경계 질환으로 이해되었으나, 에도시대에 들어와 감염증인 감기로 인식되고 쇠국이었지만 중국 등 이국 사람들의 왕래를 통해 감기가 유행했다고 인식됨. 당시 유행했던 감기에는 당대의 사회문화와 관련된 이름이 붙었는데, 당시 유행하던 연극이나 가요의 주인공명을 붙인 お駒風、お七風、스모선수의 이름을 붙인 谷風 등 애칭이 있었다.³⁾

당시 일본에서 감기란 바람이 체내로 들어온 결과라고 인식했던 것처럼, 소위 과학적이고 근대적인 의약지식은 사회적으로 확대되지 못했다고 볼 수 있다. 한편 에도시대 내내 배앓이와 유행병이 만연했는데, 이를 위해 침술과 뜸을 놓거나 수험자를 찾아 기도와 약을 받는 등 한방과 민속신앙의 범주에서 질병이 다루어지는 경향을 이해할 수 있다.⁴⁾ 그러므로 에도시대 일본 사회에서 질병이란 아직 인간이 완전 정복하고 지배하지 못하는 그 무엇이라는 측면에서 당대 일본인과 현대 인류가 처한 상황이 다르지 않은데, 과연 그들의 문학적 상상력은 질병을 어떻게 묘사하고 이해하고 있는지, 당대 현실을 사실적으로 묘사한 것으로 유

1) 줄고(2019) 「에도(江戸) 시대 소설에 보이는 의사의 양상 소고(小考)-『쇼단 이샤 가타기(笑談医者氣質)』를 중심으로-」 『일본어교육』 제87집, 한국일본어교육학회, pp.139-152.

2) 矢野公和(1980) 「竹齋-世を批評するスタイル」 『国文学解釈と鑑賞』 45卷9号, 至文堂, pp.17-18. 矢野公和(1981) 「風化の凝視者-『竹齋』序説-」 『国語と国文学』 58卷11号, 至文堂, pp.70-82.

3) 酒井シヅ(2002) 『病が語る日本史』 講談社, pp.111-120.

4) 新村拓(2013) 『日本医療史』, 吉川弘文館, pp.108-137. 「当代を通じて際立った病の傾向として、疝氣と流行病(疫病)を挙げることができる。"疝氣"は腹部に痛み(疝痛)をともなうため、難病視され、治療に種々の工夫が施されてきているが、この時代には鍼術や艾灸による治療が盛んであった。(中略)加持祈禱と施薬を巧みに併用して、治病の実績をあげ、後代にまでその存在を示し続けた修験(同行=山伏)の医療行為の成果は、やはりその本草(薬物)知識の豊富さにあったとみられる。」

명한 이하라 사이카쿠(井原西鶴, 이하 사이카쿠)의 작품을 통해 이해해보고자 한다.

2. 사이카쿠 작품 속 질병 묘사

2-1. 질병과 불교적 치유

사이카쿠가 전국의 다양한 설화, 전승 등을 각색한 『사이카쿠 쇼코쿠 마나시(西鶴諸国ばなし)』(1685)에는 비교적 다양한 질병과 관련된 일화가 전개되는데 이를 순서대로 살펴보자.

「兩村の者が大勢、用水を引く大事な樋に群がり、庄屋年寄も一命を捨てて争い、あわや血の雨を降らそうとした時であった。日がかんかん照っている最中に太鼓が一つ鳴り、黒雲が舞いさがって、赤禪をした火雷が降りて来た。そして村人にこんなことを言った。『まず喧嘩をやめて、俺の言うことを聞きなさい。久しく雨を降らさないで、村々がこんなに困っているのは、俺たちの仲間の仕業だ。このごろは、水カ神鳴どもが若気の至りから、夜這にたむれて、もったいないことに腎水を減らし、気にかかりながら、こんなに日照りが続いたのだ。お前さんたちの畠でできた牛蒡を送って貰えるなら、間もなく雨を降らせることを約束する』と言うのであった。」⁵⁾

위에서 가뭄은 뇌신이 신허(腎虛) 때문에 신장에 수분이 없어 비를 내리지 못하는 것이기에 예로부터 신장의 기운을 북돋아준다고 하는 우영을 바쳐야만 가뭄이 해소된다고 한다. 이렇듯 가뭄에 대해서는 비과학적이고 문학적 해석이 서술되지만, 주목할 것은 질병인 신허에 대해서는 밑줄 친 부분과 같이 당대의 의학, 즉 한방의 상식선상에서 설명이 되었다는 사실이다. 나아가 신허 치료를 위해 우영 섭취가 필요한 것은 훗날 『혼초쇼쿠카가미(本朝食鑑)』(1697) 3권에도 서술되듯 당대에 권장되는 치료방법이었던 것으로, 일화의 구성은 문학적 상상에 의하지만 질병과 그 치료에 관련된 묘사는 사실적으로 이루어진 것으로 보인다. 신허에 대한 또 다른 일화를 살펴보자.

又の夜になる事を待兼、人には語らず、契を籠て、いまだ二十日もたたぬに、我は覺ず、次第にやするを、念比なるくすしのとがめて、脈を見るに、おもふにたがはず、いんきよかどうの、気色に極まり、「さりとは頼みすくなき身上なり、日比はたしなみ深く、見へたまふが、扱はかくし女のあるか」と、尋ねければ、(中略)「是ぞ世に伝へし、紫女といふ者なるべし。是におもひつかるこそ、因果なれ。人の血を吸、一命を取りし事ためし有。兎角は此女を切たまへ。さもなくば、やむ事なし。又養生のたよりもなし」と、(中略)ぬきうちたたみかくれば、其ま消かか、面影をしたひ行に、橘山のはるか、木深き洞穴に入れる。其後も心を残し、あさましき形見へければ、国中の道心者あつめて弔ひけるに、影消て伊織も、あやうき命を。⁶⁾

위의 일화는 중국의 『전등신화』를 답습한 『오토기보코(御伽子)』의 「모란등롱(牡丹灯籠)」이나 「여우 요괴(狐の妖怪)」의 영향을 받았다고 하는 지적⁷⁾에는 전적으로 동의한다. 다만 「모란등롱」의 경우, 주인공 남성은 죽었고 여성이 매장되어 있던 절의 승려들이 사건을 기이하게 여겨 묘를 이장하였으며, 주인공 남성의 일족이 유령들을 위로하고자 불경을 읊었다고 하는 설정이다. 환연하자면 이는 남녀간의 치정을 괴담화 한 것이요 불가사이한 인간사를 묘사한 일화라고 하겠다. 이와 달리 사이카쿠의 일화에서는 ‘전국의 승려’를 모아

5) 麻生磯次・富士昭雄注釈(1975)『対訳西鶴全集 西鶴諸国ばなし』2-7, pp.61-62.

6) 위의 책, 3-4, pp.78-80.

7) 위의 책, p.81.

서 거대한 불력으로써 염불하여 여성 귀신이 사라지고 남성 주인공인 이오리가 살아남았다고 하는 결말의 차이를 확인할 수 있다. 즉 사이카쿠의 일화에서는 신허 때문에 생명이 위태로워진 이오리지만, 불력, 즉 종교적 믿음에 의해 구제되는데, 이로써 당대에 심각한 질병이라고 할지라도 불력에 의해 퇴치될 수 있다는 믿음이 작가와 독자에게 공유되고 있음을 알 수 있다. 다음 일화도 질병과 불교의 관계를 잘 나타내 주는 일례라고 할 수 있으니, 이를 살펴보자.

母の親の才覚にて、あそからぬ事を取りいそぎ、縁付の手道具までも、残所もなく拵へ、あなたこなたの云入も合点せず、都の花をと、聳見競し折ふし、風のここちと、なやみけるに、京中の薬師に掛て、さまざまかんびやうすれども甲斐なく、惜や眠がごとく世をさりける。二親のなげき限りもなし。(中略)何とも見分けがたき形、あしもとへ踏当、是はとおどろき、燃さしをあげて見れば、さて娘御の、火葬を見るに、早桶たきぎの外へ、こけて出けるに、気をつけ、彼死人を見れば髪かしらは焼けても、風情はかはらず、いまだ幽かに、いきづかひのあれば、木の葉のしづくを口にそそぎ、(中略)脈にたのみあれば、不斷のいしゃを、よびに遣し、はじめを語りて、しのびしのびに薬をもれば、次第に目をあき、足手をうごかし、じねんに見ぐるしき事もやみぬ。半年もすぎて、様子をきけども、かつて物はいはねば、現の人にあへること。是を薬師も合点ゆかず、「占はなしても見給へ」と、阿部の何がしをよびて、八卦を見るに、「此人何程、くすりをつくしたまふとも、聞事更にあるまじ。子細は、親類中に、うき世になき人の、弔ひ事をしたまふゆへぞ」と、見通す様にぞ申ける。(中略)かくて三年もすぎて、むかしに替らず、美女となりて、つねづね願ひ通り、十七の十月より、身を墨染の衣になし、嵐山の近なる里に、ひとつ庵をむすび、後の世をねがひける。8)

위의 일화는 감기로 불현 듯 사망한 14세의 아름다운 처녀가 다시 살아났으나, 말을 하지 못하는 불가사의한 사건에 초점이 있다. 죽음에서 다시 살아 돌아오는 의학적으로 설명할 수 없는 기이한 현상은 현대에도 어찌다가 한번 일어나지만, 당대에도 유사한 일이 있었던 듯하다. 그런데 흥미로운 점은 그녀가 육체는 회복되어 가지만, 듣지 못하고 정신이 돌아오지 않는 이유를 그녀의 가족들이 그녀가 죽은 줄로만 알고 제사를 지내고 있기 때문이라고 점쟁이가 말한다는 설정이다. 여기서 육신은 의사나 의약을 통해 치료하고 구제할 수 있지만, 정신적인 회생과 그 이후의 삶은 불교적인 세계에서 관리하고 다스린다는 전제가 엿보인다고 하겠다. 그러므로 육체적 삶과 정신적 삶이 분리되어 있다고 보는 당대의 인식을 이 일화를 통해 이해할 수 있다.

2-2. 업보로서의 질병

한편 질병은 일종의 업보로서 야기된다는 믿음이 다음 4권4장의 일화에서 확인된다.

目玉の林内といふ者、世をわたる業もおおきに、冬のあらしをもいはず、あたりの若者をかたらひ、明暮鳥の命をとる事、かぎりもなし。つれそふ女房は、やさしくも、「此事とまれ」と、異見する事たびたびなれどもやめず。是かなしく、独ねられぬままに、世の無常をくはんずる時、寝させ置たる、二人の子共、現に声をあげて、びくびく身のうごく事、三十七度也。次第おそろしくなつて、男を待兼るに、(中略)「今夜の鳥の数、三十七羽有べし。」(中略)駕籠をあけて見るに、しめ鳥数違はねば、林内横手をうつ。宵より子どもが、おどろくありさまを語れば、身ぶるいひして、是より万の道具を塚につき、色々くやうなし、今に鳥塚とて残れり。9)

8) 위의 책, 3-2, pp.70-73.

9) 위의 책, 4-4, pp.107-108.

위는 새 사냥을 즐기는 남성의 아이들이 저주를 받아 살생한 새의 수만큼 경련을 일으켜, 살생을 관두게 된다는 일화다. 이처럼 질병이란 일종의 업보로서 이를 반성하여 비로소 질병이나 고통에서 해방된다는 믿음은 다음의 일화에서도 묘사된다.

此里のかたはらにとへいろう、丸之介といへる浪人ありしに、所作すべきわざなく、たくはへしものみなになし、人しれぬ薬を売りに、家中の端半女のいたづらに妊めるをおろす名誉を得、もとでわずかなるに薬代に金銀をおほく取て、渡世とするうちに、一人の娘をもふけぬ。成人するにしたがひ器量人にすぐれ、十四才の時、似合敷所ありて祝言ことすみける。(中略)盃の浪は越ともといはひたるも、其夜の明るをまちかねて里にをくられけり。漸四、五年のうちに五所さられて帰るは、いまだ縁のきたらざるものと悔し。明の春は疫病はやり、丸之介夫婦相はてしより、(中略)相手はかはる新枕、其身には夢にもしらざるところに、いづくともなく此女の前後より、胞衣かぶりたる赤子数百人惣身にひしと取つき、水泳ぐまねして立ならびたる見るより、身の毛よだち、中々傍によるまでもなく、日ごろの恋たちまちさめて、夢もむすばず、(中略)大社御神前にて、『其謂を告げしらしめ給へ』と祈りけるに、夢の中に語らせ給ふは、『汝が親のなせる罪の罰きての寝姿』のありさまをくはしく教給ふに、(中略)いよいよ後世のいとなみして、彼これの菩提を祈らんと、此老僧に頼みて剃髮するにて侍る」とかたりけるを、¹⁰⁾

위의 유산 약을 팔던 부부는 역병으로 동시에 죽게 되었는데, 그 딸은 사망한 태아들의 저주를 받아 밑줄 친 부분과 같이 잠자리에 들 때마다 태아들이 몸에 달라붙는 형상을 하게 되어 결혼 전날마다 파혼 당한다. 이윽고 부모의 업보 때문에 매번 파혼 당한 것을 알게 된 여성은 출가함으로써 고통에서 벗어나고자 한다. 이와 같은 일화의 전개상, 부부가 역병으로 동시에 죽음을 맞이하는 것도 일종의 업보로서 읽어낼 수 있다고 하겠다. 이처럼 17세기 후반 일본 사회에서는 원인을 알 수 없는 질병과 고통을 일종의 업보로서 이해하고, 이에 의학적인 접근보다는 종교적인 접근을 통해 극복하고 탈피하고자 했던 측면이 있었다고 하겠다. 그렇다면 사이카쿠가 활동한 시기에는 질병을 의학적으로 극복하고자 하는 노력은 없었던 것일까? 다음에서 그 상세한 것을 살펴보기로 한다.

2-3. 의학적 현실의 공유와 질병의 극복

『부도덴라이키(武道伝来記)』(1687)의 5권 1장에는 한문으로 적힌 의안(医案)이 보인다.¹¹⁾ 겐포(玄芳)와 슈에키(周益) 두 명의 의사가 각자의 의안으로써 의술을 다투는 과정이 묘사되는데, 이에 대해서 다음과 같은 연구가 주목할 만하다.

오늘날과 같은 진단 카르텔과는 양상을 달리하고, 다른 의사의 실패를 기술하는 것이 에도시대 의안의 신뢰성을 담보하는 것으로 거기에 추악하게 쓰인 라이벌 의사들도 항변할 수가 없었다. 이것이 '의도의 시작', 의사들의 물이었다. 즉 사이카쿠의 『무도전래기』는 이 의안에서의 '의도의 시작'을 전제로 묘사된 것이라고 생각된다. 그러므로 무엇보다도 필요한 것은 다른 의사의 결점과 그것을 기록하는 한문 '의견서'였던 것이다.¹²⁾

10) 麻生磯次·富士昭雄注釈(1975)『対訳西鶴全集 懐硯』4-3, pp.258-261,

11) 麻生磯次·富士昭雄編(1978)『対訳西鶴全集 武道伝来記』明治書院, pp.165-167. 「愚暗の玄芳、硯をならして、脈来、数大、此陰虛火動之病也。(中略)所以然者、火妄動則、療物疾之象也。(中略)舌生白胎者、胃中有寒、丹田有熱也。夜不寝者、由子盗母氣、心虚而、神不安也。」

3. 나오며

일련의 사이카쿠 작품 속 질병과 관련된 일화를 살펴보면, 질병을 불교적으로 치유할 수 있다는 믿음, 질병의 원인이 업보라는 해석과 더불어 당대의 의학적 지식과 기술을 통한 질병의 치유 가능성이 사회적으로 공존하고 있음을 이해할 수 있다. 환언하자면 질병에 대한 종교적, 관습적 믿음과 해석 및 의학적 지식이 공존한다고 할 수 있는데, 이는 질병에 대한 불안감을 극복하고자 하는 다각적인 시도라고 할 수 있다. 이는 전근대 일본 사회에서 생명과 직접적으로 관련된 사건, 사고에 대한 문화적 이해와 극복이라는 차원에서 충분히 가치가 있는 것이다. 그러나 질병에 대한 과학적, 합리적 진보가 이루어져 온 오늘날, 질병에 대한 인류의 근원적 불안감은 과연 불식되었다고 할 수 있을까? 코로나19에 대한 의학적으로 입증되지 않은 수많은 믿음과 해석이 만연하며 질병에 대한 불안감이 증폭되고 갈등이 확대되고 있는 양상은 사이카쿠가 활동했던 시대 상황으로부터 확인되는 그것과 크게 다르지 않은 것 같다. 이제 인류가 스스로 불안감을 증폭시키며 갈등하는 데에서 나아가기 위해서는 질병에 대한 비의학적인 믿음과 인식은 역사 속에 묻어 놓고, 의학적인 사실과 진보에 관심을 집중하는 시기를 맞이하였다고 하겠다.

12) 福田安典(2016)『医学書の中の「文学」』笠間書院, p.100.「今日の診断カルテとは様相を異にし、他の医師の失敗を記すことが、江戸期の医案の信頼性を担保するものであって、そこに醜く悪く書かれたライバル医師達も抗弁することができなかった。これが「医道のはじまり」、医師たちのルールであった。つまり、西鶴の『武道伝来記』はこの医案における「医道のはじまり」を前提に描かれたものと思われるのである。ゆえに、何よりも必要なものは、他医の欠点と、それを記す漢文の『書付』であったのである。」

인플루엔자로 읽는 나쓰메 소세키

- 「고토노소라네」에 드러나는 인플루엔자의 상징을 중심으로 -

류정훈(고려대)

「고토노소라네(琴のそら音)」는 1905년 잡지 『칠인(七人)』에 발표된 후, 1906년 단행본 『요쿄슈(漾虚集)』에 수록된 나쓰메 소세키의 단편소설이다. 『요쿄슈』에는 「고토노소라네」 외에도 「런던탑(倫敦塔)」, 「취미의 유전(趣味の遺伝)」, 「환영의 방패(幻影の盾)」와 같이 소세키 초기의 낭만적 경향이 드러나는 작품이 다수 수록되어 있으며, 선행연구에서는 일찍이 에토 준(江藤淳)이 소세키의 '저음부(低音部)'¹⁾, 혹은 '심연(深淵)'을 엿볼 수 있다고 평가한 바 있다. 에토는 『요쿄슈』에 수록된 작품을 통해 소세키가 지닌 “삶 자체에 대한 생리적 혐오 감정”²⁾을 읽어내려 하였고 이를 소세키의 '저음부' 혹은 '심연'이라 명명했다. 『요쿄슈』에 다섯 번째로 수록된 단편 「고토노소라네」는 이후 '저음부'나 '심연'에 속하는 작품 중에서도 하나의 소품으로 인식되어 주목받지 못하거나 종종 부차적으로 언급되는 것에 그쳤다. 그러나 2000년 이후로는 「고토노소라네」와 관련한 작품론이 눈에 띄게 늘어나는 경향을 보이기도 한다.

예컨대 주인공 '나'의 약혼자에 대한 기대와 불안을 중심으로 작품을 분석해 약혼녀가 정말 자신을 사랑하는지에 대한 사랑의 강요관념의 은폐로 읽는 논³⁾, 죽음을 문학적 낭만주의로 인식하는 동인이 과학이 갖는 합리성에 있다는 역설을 통해 과학과 문학의 표리일체적 결합을 보는 논⁴⁾, '나'가 '유령이라는 광기'에 사로잡히면서도 정상으로 귀착한다는 논⁵⁾, 주요 등장인물인 두 남자('나'와 쓰다 군)의 우정이 깊어지는 과정으로 파악하는 논⁶⁾ 등이 있다. 그 중에서도 후쿠이 신지(福井慎二)는 「漱石『琴のそら音』論—インフルエンザの近代文学史」를 통해 인플루엔자라는 요소를 중심으로 「고토노소라네」를 문학사 내에서 파악하거나 소세키의 문학론이라는 관점에서 이해하려는 시도를 한 바 있다.⁷⁾

- 1) 安天 「「他者」概念の誕生—江藤淳の『夏目漱石』について」によると、江藤淳の低音部概念は以下のようなものである。「南画と漢詩、英詩といった芸術趣向は、「生」そのものに対して殆ど生理的な嫌悪の感情」を持っていた漱石にとって、苦痛で在り続ける日常生活の領域から束の間であれ逃れ癒しを得るための、すなわち現実逃避のための世界であったとし、この現実逃避願望が幼い頃から一貫していた漱石の主調低音に据える。(中略)『漾虚集』から始まり『四編』にいたるほとんどの短編小説には、漱石の現実逃避願望が色濃くあらわれているという。厭世的な審美主義傾向の短編小説を執筆する傍ら、生活者としては長編小説に「日本の現実」を描いていたというのが、江藤が提示する漱石像である。」安天 「「他者」概念の誕生—江藤淳の『夏目漱石』について」 『言語情報科学』10号、東京大学大学院総合文化研究科言語情報科学専攻、2012年、146頁。
- 2) 江藤淳 『江藤淳著作集1—漱石論』講談社、1967年、37頁。
- 3) 松本良太 「隠蔽された愛の強要観念—夏目漱石『琴のそら音』論」 『金沢大学国語国文学』37号、金沢大学国語国文学会、2012年3月。
- 4) 神田祥子 「「科学」という信仰—夏目漱石「琴のそら音」を視座として」 『東京大学国文学論集』5号、東京大学文学部国文学研究室、2010年3月。
- 5) 荻原佳子 「幽霊という狂気—漱石「琴のそら音」」 『九州女子大学紀要』39巻3号、九州女子大学文学部人間文化学科、2003年2月。
- 6) 宮菫美佳 「夏目漱石「琴のそら音」考—「余」の見た「幽霊」のもたらしたもの」 『人文論究』46巻3号、関西学院大学文学部、1996年12月。

「고토노소라네」의 서사구조는 세 명의 등장인물을 중심으로 전개된다. 주인공 '나'가 집안일을 위해 고용한 '할머니'⁸⁾는 밤에 개 짖는 소리가 불길하다거나 절에서 본 점괘에 집착하는 모습을 보이는 등, 미신과 전근대성, 반근대성을 대표하는 인물로 등장한다. 반면, 근대화-서양화 된 제국 대학의 국가적 교육 시스템의 소산인 '나'와 '쓰다 군'은 근대적 지식을 대표하는 존재라 할 것이다. 하지만 「고토노소라네」가 흥미로운 지점은 미신과 근대적 지식이 명확하고 단순하게 대립하는 것으로 설정되지 않았다는 점이다.

심리학을 연구하는 길을 선택한 문학사 '쓰다 군'은 법학사로 엘리트 관료의 길을 걷는 '나'와 다르다. '쓰다 군'은 유령이 존재한다는 믿음, 이른바 미신을 부정하기보다 때론 서양의 지적 권위를 참조하면서까지 유령을 비롯한 괴이 현상, 즉 일본에서 미신이라 여겨지던 것들이 근대적-서양적 지식의 체계에 의해서 합리적으로 설명 가능하다고 역설한다. '쓰다 군'과 달리 대학졸업 후 현실적인 입신출세의 길을 선택한 '나'는 '쓰다 군'의 속세를 벗어난 삶의 자세를 부분적으로는 경멸하면서도 미신으로 여겨져 온 현상에 새로운 근대적-서양적 재해석을 부여하려는 '쓰다군'에 대해 열등감과 함께 경외심을 품고 있다.

전근대성, 혹은 반근대성을 상징하는 '할머니', 새로운 형태의 근대성을 상징하는 '쓰다 군' 사이에서 기존의 근대성을 버리지 못하고 있던 '나'가 흔들리는 자신의 아이덴티티를 확보해 가는 과정이 「고토노소라네」 서사의 중심을 이룬다. 이 때 '나'의 자의식은 계속해서 죽음에 대한 불안과 공포로 채워지는데 이를 자극하는 요소로 등장하는 것이 인플루엔자이다. 본 발표에서는 「고토노소라네」에서 중요 기제로 작동하는 '인플루엔자'를 중심으로 「고토노소라네」가 지닌 시대성에 의거한 새로운 독해의 가능성을 타진해본다. 앞서 언급한 후쿠이 신지의 논문이 「고토노소라네」를 문학사라는 관점, 혹은 나쓰메 소세키의 문학론이라는 관점에서 파악한 것과 달리 본 발표에서는 「고토노소라네」에서 인플루엔자가 지니는 상징성을 중심으로 분석을 시도해 인플루엔자를 비롯한 질병이 메이지기 일본의 근대성과 결부되어 가는 과정을 고찰하는 계기로 삼는다.

7) 福井慎二「漱石『琴のそら音』論—インフルエンザの近代文学史」『河南論集』6号、大阪芸術大学芸術学部文芸学科研究室、2001年3月。
8) 没落士族階級出身。彼女は、近い将来に予定されている「余」と婚約者「露子」との新生活準備の役割も担っている。

기부키의 질병과 약

편용우(전주대)

1. 들어가기

가부키(歌舞伎) 작품에는 명검, 명옥(名玉), 족자 등 수많은 보물이 등장한다. 『しばいきんもつづい戯場訓蒙図彙』(1803년)에는 명검과 명옥에 대해 다음과 같이 설명하고 있다.

めいけん 名劍 むらぐも 村雲の宝劍、とつか 十束劍、(中略) 此外猶あるべし。何れも目前にもくぜん 奇特あり。(中略) 故
に紛失すること、毎日絶ゆる間なしと云。
めいぎよく 名玉 (中略) 名劍の奇特に同じく、是も紛失したがる。

소설가(戯作者) 시키테이 산바(式亭三馬)의 재치가 엿보이는 설명으로 가부키 세계를 하나의 실재하는 지역(国)으로 상정하여 가부키 설정을 우스꽝스럽게 적고 있다. 명검과 명옥 등 보물이 항상 분실된다는 이야기인데, 이는 집안 횡령 사건인 오이에소동(お家騒動)과 복수극 아다우치(仇討ち)의 내용이 대부분인 가부키 시대물(時代物)과 관련이 깊다. 이 두 주제에서 악인들이 이용하는 상투적인 방법이 상대 집안의 보물을 훔치는 것이기 때문이다. 가부키는 선인들이 보물을 되찾아 집안을 다시 일으키고 복수를 하기 위해 동분서주 하는 내용이 대부분이다. 주인공을 비롯한 선인들은 보물을 되찾는 과정에서 딸과 부인을 유곽에 팔아 돈을 마련하고, 악인에게 살해를 당하는 등 시련을 겪는다. 가부키의 감동은 등장인물이 그 시련을 극복하는 과정에서 초래한다.

가부키에서 명검과 같은 보물 이외에도 주인공에게 시련을 주는 장치로 질병을 들 수 있다. 명검 등의 보물을 분실하고 되찾는 과정과 마찬가지로 등장인물이 질병에 걸리고 그에 따른 치료약을 획득하는 과정에서 주위의 희생이 따르게 마련이다. 본 발표에서는 쓰루야 난보쿠(鶴屋南北)의 작품 『そめたづなけのはるごま染纏竹春駒』(1814)의 질병과 그 치료약이 어떻게 극 속에서 작용하는지 살펴보고, 당시 가부키 작품이 질병을 극 장치로 어떻게 사용했는지 밝혀보도록 하겠다.

2. 새로운 질병, 상투적인 약

『そめたづなけのはるごま染纏竹春駒』(1814)의 사기사카 사나이(鷺坂左内, 松本幸四郎扮)는 자신이 몸을 담고 있는 유루기 집안(油留木家)을 횡령하려는 음모를 꾸미고 있다. 사나이는 유루기 집안의 족보(油留木家系図)를 훔치는 과정에서 어깨에 상처를 입는다¹⁾.

1) 与三兵 面を包みその上に、何をいふにも暗紛れ、深手は負へども、彼奴が肩先、切り込る覚への、手ごたへ。

이후 사나이는 제6막(6幕目)에서 「長髪、病ひ鉢巻」라고 하는 병자의 모습으로 등장한다²⁾. 긴 머리와 머리띠는 병자의 모습을 시각적으로 표현하는 가부키의 전형적인 방법이다. 사나이의 상처는 보통과 다르게 치료가 되지 않는데, 그 이유를 사나이 자신이 설명하고 있다.

新左衛 左様でござる。先達ておかゝりなされた、勢州石楽師の名医と承わったが、これでも御全快はござらぬかな。

左内 久々、木屋町の貸座敷へ呼んで、療治いたしたれど、思わしふもござらぬ。一体の病症が神経病と申して、とかく両腕両足の、筋骨を痛めまするて。³⁾

밑줄과 같이 사나이는 자신의 병이 「신경병」의 일종이라고 이야기하고 있다. 「신경(神經)」이라는 말은 스기타 겐파쿠(杉田玄白)가 『해체신서(解体新書)』(1774)에서 만들어낸 번역어로 이후 난학자들에 의해 널리 쓰이게 되었다. 작가인 쓰루야 난보쿠(鶴屋南北)가 『해체신서』를 직접 보았다기 보다는 우타가와 겐신(宇田川玄真)의 『医模提綱』(1805)을 보았을 가능성이 크다. 우타가와 겐신은 이세(伊勢) 출신으로 스기타 겐파쿠의 딸과 결혼해 양자가 되었지만 이혼당했다. 이후 쓰야마 번(津山藩)의 번의(藩医) 우타가와 집안의 양자가 되었다. 『医模提綱』는 그 이후의 번역서로 대중으로부터 『해체신서』보다 알기 쉽다는 평가를 받았다.⁴⁾

난보쿠가 보았다고 생각되는 부분은 『医模提綱』卷1의 다음 인용 부분이다.

神経外傷ニ由テ断絶シ、或ハ病毒壅塞^{ようそく}シテ靈液通ゼザレバ、其害ヲ被ル神経ノ循行スル部位ニ限テ頑麻不隨ヲ為スト。相以テ知覚挙動ヲ失フニ至テハ其理全ク同ジ。

영액(靈液)은 당시 서양 의학계에서 신경계를 이루고 있는 주요 물질로 인식되던 일종의 신경액으로, 뇌에서 만들어져 말초신경까지 순환을 한다고 여겨지고 있었다. 우타가와 겐신은 서양의 최신 정보를 통해 신경이 손상을 받으면 영액이 순환하지 않아 마비가 온다고 전하고 있는 것이다. 사기사카 사나이는 당시 최첨단의 의료인 난학을 통해 진료를 받고, 「신경병」이라는 진단을 받은 것이다. 굳이 이렇게까지 정확한 병명과 원인을 자세하게 밝히고 있는 것은 그만큼 난학이 에도에서 유행을 하고 사람들의 관심을 끌었기 때문일 것이다.

하지만 최첨단의 진단과는 달리 해결책인 「약」은 가부키의 상투적인 방법을 답습하고 있다.

新左衛 しからは腫物類でも、疵でも無く、

左内 たゞ筋骨をいためての難儀、さるに依て、御所方の名医の申さるゝには、酉の年、年月日時の女の生血と、天機の一葉を服すれば、立まち平癒と承われど、取り得難さとの妙薬。

新左 ハテ、むづかしひ薬も、あればある物でござるな。⁵⁾

逸平 スリヤ、肩先へ、かすり疵。

与三兵 一心凝つたる我が手の内。景図^{ママ}はやみ／＼取らるゝとも、切附たるが後日の詮義、肩先の証拠。思へば／＼。『鶴屋南北全集 第6巻』, p33

2) 左内、長髪、病ひ鉢巻、着ながし、前帯、大小にて出る。『鶴屋南北全集 第6巻』, p81

3) 『鶴屋南北全集 第6巻』, p85

4) 歴史群像編集部(2010)『全国版 幕末維新人物事典』, p331

5) 『鶴屋南北全集 第6巻』, p85

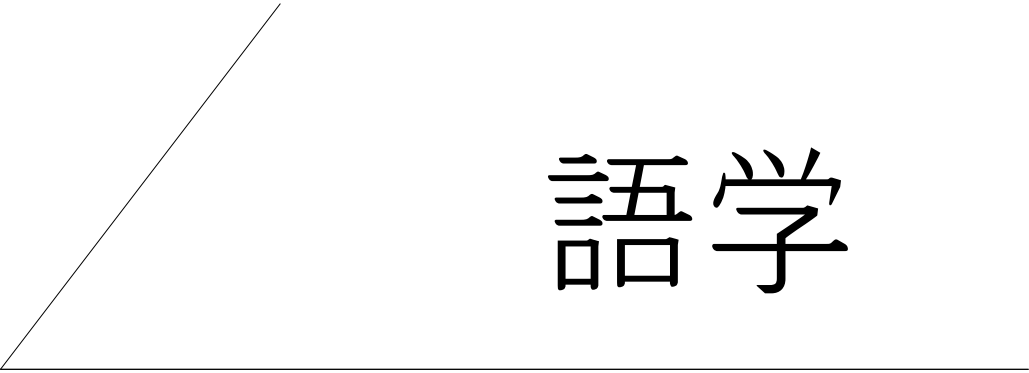
사이가 처방을 받은 약은 「닭의 해, 닭의 달, 닭의 날, 닭의 시에 태어난 여아의 생혈」이었다. 가부키 세계에서는 같은 연월일시가 겹치는 사람의 신체나 생혈이 자주 등장하는데, 위에서 인용했던 『戲場訓蒙図彙』에 다음과 같이 설명되어 있다.

肝きも 是は難治の病には大妙薬也。十二支のうちの生れによりて^{ママ}功能ありといふ。又幻術をくじく薬ともなる。此ごとく^{あつらえひき}詭向あつらえひきの生れは、たくさんなさそふな物なれ共、悪ぢぢいか悪ばばアなどに^{たの}頼めば百兩の^{ほうび}褒美金で直に手に入るなり。

위 인용에서는 「간」을 특별히 예를 들고 있다. 시키테이 산바는 이렇게 특별한 것은 잘 없을 것 같지만, 나쁜 노파나 노인에게 100량 정도 주면 손에 넣을 수 있다고 아다치가하라(安達ヶ原)의 귀녀(鬼女) 전설을 바탕으로 재치있게 설명하고 있다. 위의 「묘약」은 주인공의 딸이나 아들이 대상이 되는 것이 가부키의 상투적인 수법이다. 마치 명검을 되찾기 위해 가족을 유곽에 팔아넘기고 희생을 하는 것과 마찬가지로, 가족의 희생에서 관객들의 감동을 유도하는 수법이다. 결국 서양의 새로운 지식으로 병명은 화려해졌지만, 그 역시 가부키에 새로움을 더하는 하나의 「취향(趣向)」에 불과했던 것이다.

3. 나가며

가부키에서 명검과 명옥과 같은 보물과 질병의 극중 장치로서의 역할은 동일하다고 볼 수 있다. 등장 인물간의 갈등과 해소를 위한 장치로, 이를 통해 극적 감동이 이루어진다고 볼 수 있다. 단 보물은 정해진 세계 속에서 그 종류가 한정되어 있다. 그리고 「보물」이라고 하는 특성상 시대물과 엮일 수 밖에 없는 한계가 있다. 하지만 질병은 난학의 유행과 함께 그 종류가 더 다양해졌으며, 사람들의 흥미도 더 끌 수 있는 소재였다. 게다가 시대물과 세태물(世話物)의 제약이 없다고 하는 점도 작가들이 더욱 자유롭게 이용할 수 있는 소재였을 것이다.



語学

「連文か複文か」

橋本修 (筑波大学)

安部朋世 (千葉大学)

1. はじめに

2つ以上の出来事を表現する際に単文の連鎖(連文)で表現するのか、一つの複文で表現するのかについての選択肢について、どのような論点があるのか、具体例他から考える。

上記の問題は、日本語文法論としては意味論・語用論の境界にまたがる問題になることが多い。純粋な生得的母語能力としての文法だけに止まらないことも多いので、教育の領域においては、日本語教育の問題としてだけではなく、(母語としての) 国語教育にも関わることになる。

2. 1つの複文と2文連鎖との対応 ケーススタディ

2-1 原因・理由と帰結の連鎖

原因理由となる命題(文相当の出来事)と、その帰結にあたる命題(文相当の出来事)との組み合わせにおいては、たとえば

(01) 連文 A。だから、B。 (A。なので、B。 / A。そこで、B …)

(02) 複文 Aので、B。 (Aから、B。 / Aため、B。 / Aせいで、B。 …)

というような選択肢がある。¹

『明鏡国語辞典(大修館書店)』における、関係部分の記述は、概ね下記の通りである。

だから[接続詞]

前に述べたことを理由として、その帰結を述べる語。そういうわけで。それゆえ。

ので[接続助詞]

前に述べたことが後ろに述べることの理由や原因であることをあらわす。

連文を作る接続詞「だから」と、複文を作る接続助詞「ので」についての上記の記述からは、両者間での置き換えの成立条件に関わる情報は特に得られない。そうすると最も素朴には、「原因・理由となる出来事(命

¹ 以下、連文のほうを「A。だから、B。」、複文のほうを「Aので、B。」で代表させる。上記を代表的とみるのは先行研究、出現頻度、母語話者の直感による。他形式との比較は今後の課題であるが、複文のほうの、「ので」については、かなりの割合で「から」と互換可能である(詳しくは 宮島達夫・仁田義雄編 1995 ほか参照)。

題)と、その帰結となる出来事(命題)」との組み合わせにおいて、両者は置き換え可能ということになり、実際に教育の場で、書き換えの問題(設問)として設定されることもある。²

(03) 国立教育政策研究所 全国学力状況調査[平成25年 小学校国語A-3]

次の【文章の一部】は、六年生の高島さんが五年生のときから続けている放送委員の仕事について書いたものです。これを読んで、あとの問いに答えましょう。

【文章の一部】

放送委員会の役員を決める話し合いをした。ぼくは、委員長を任されることになった。新しく委員になった五年生は、放送機器の使い方が分からなくて不安そうにしていたので、ぼくは、これまでの経験を生かして、いろいろなことを教えてあげたいと思った。

設問

一(省略)

二

【文章の一部】の中の部を、主語に注目して二つの内容に分けて書き直します。つなぎ言葉には、「だから」を使います。

(1)一つ目の文の終わりの七文字と、二つ目の文の「だから、」に続く七文字を書きましょう。なお、読点(,)も字数にふくみます。

<解答欄>

新しく委員になった五年生は、～中略～□□□□□□□。だから、□□□□□□□～中略～教えてあげたいと思った。

<正解(例)>

そうにしていた (。だから、) ぼくは、これま

上記に関し、小学校高学年の生徒が書く文章として、正解例の文章、すなわち

² 因果関係をあらわさないタイプの「ので」「から」を伴う複文は中心的な考察から外しておく。ただし、因果関係をあらわさないタイプの「ので」「から」が、全て「だから」の連文で置き換えられる、あるいは置き換えられない、というわけではなく、このタイプの複文についても興味深い点が含まれている。

(04) (?) 新しく委員になった五年生は、放送機器の使い方が分からなくて不安そうにしていた。だから、ぼくは、これまでの経験を生かして、いろいろなことを教えてあげたいと思った。

は、たしかに非常に不適切な文章というわけではない。

しかし、大人の書きことばとしてみた場合、上記文章には、若干の不自然さが残るように思われる。実際のところ、「~ので」を含む複文を「~。だから、~」に書きかえると不自然さの生じる例は少なくない。以下では「~ので」を含む複文が、「だから」を含む連文に書きかえられないケースについて、一般化できないか、なんらかの傾向性を抽出できないか検討する。

2-2 「。だから、」に置き換えられない「ので」の文

直感的に原因・理由とその帰結をあらわしているにもかかわらず、「。だから、」に置き換えられない「ので」の文の典型は、以下のようなものである。

- (05) 椅子に座るとすぐにウェイトレスが来たので、今もらった食券を彼女に差し出した。
[残間昭彦「白夜の風に漂う」日本文学館 2005]
- (06) ??椅子に座るとすぐにウェイトレスが来た。だから、(私は)今もらった食券を彼女に差し出した。
- (07) ベッドの横に着替えらしき紙袋があったので、中を探ってみたが、残念ながら煙草は入っていない。 [ひちわゆか『ラブ・ミー・テンダー』ビブロス 2001]
- (08) ?? ベッドの横に着替えらしき紙袋があった。だから、中を探ってみたが、残念ながら煙草は入っていない。
- (09) カーブに差し掛かりC12の姿が見えたので、沿道の人々とC12のふれあいを撮ってみました。
[yahoo!ブログ 2008]
- (10) ??カーブに差し掛かりC12の姿が見えました。だから／ですから³、沿道の人々とC12のふれあいを撮ってみました。

これらに共通するのは、

(11)

- ・前件も後件も個別の一回的な出来事で、
- ・前件の出来事を知覚したことを受けて、話し手ないし主人公（語り文体における話し手に準じた存在）が行動をおこなう。

というタイプの出来事連鎖である、ということである。

³ 「だから」は丁寧体の文章中では不自然になりやすい傾向にあるが、「ですから」に置き換えても不自然さはほぼ変わらない。

このようなタイプの「ので」の文を、「継起タイプ」と呼んでおく。このようなタイプの「ので」の文を連文にした場合、最も自然になりやすいのは、接続詞のない形である。

- (12) 椅子に座るとすぐにウエイトレスが来たので、今もらった食券を彼女に差し出した。
- (13) 椅子に座るとすぐにウエイトレスが来た。(私は) 今もらった食券を彼女に差し出した。
- (14) ベッドの横に着替えらしき紙袋があったので、中を探ってみたが、残念ながら煙草は入っていない。
- (15) ベッドの横に着替えらしき紙袋があった。中を探ってみたが、残念ながら煙草は入っていない。
- (16) カーブに差し掛かり C12 の姿が見えたので、沿道の人々と C12 のふれあいを撮ってみました。
- (17) カーブに差し掛かり C12 の姿が見えました。沿道の人々と C12 のふれあいを撮ってみました。⁴

「継起タイプ」の「ので」文と、典型的に対立するような、前件と後件がともに非一回的な（ノンアクチュアルな）命題である場合には、概ね「だから」による書き換えが可能である。

- (18) 鯨は哺乳類なので、えらではなく肺で呼吸する。
- (19) 鯨は哺乳類だ。だから、えらではなく肺で呼吸する。
- (20) 特級は試験に法律が関わってくる上に資料持込禁止なので、持っている人はほとんどいません。
[2005yahoo 知恵袋]
- (21) 特級は試験に法律が関わってくる上に資料持込禁止だ。だから、持っている人はほとんどいない。
- (22) 特級は試験に法律が関わってくる上に資料持込禁止です。ですから、持っている人はほとんどいません。

このような、「～だから、～」への書き換えがほぼ全く問題のない(18)(20)から、先ほどの、書き換えが非常に不自然な(05)(07)(09)の間に、いろいろなタイプの「～ので」の複文があるのだと考えられる。たとえば、先に問題にした学力状況調査の、

- (04) (?) 新しく委員になった五年生は、放送機器の使い方が分からなくて不安そうにしていた。だから、
ぼくは、これまでの経験を生かして、いろいろなことを教えてあげたいと思った。

が、(18)(20) と(05)(07)(09)の間ぐらいの自然さ（許容度）であることにも納得がいく。(04)は1つめの出来事と2つめの出来事が隣接関係にあるが、1つめの出来事がテイタ形で、典型的な継起関係ではないという点で、(05)(07)(09)ほど不自然ではないが、完全に OK というわけでもない、という微妙な許容度になっていると解釈できる。

⁴ (17)には若干の不自然さがあるかもしれない。「だから／ですから」でつなぐのは不自然であるが、「そこで」でつなぐのが最も自然に感じられる。これらをめぐる検討は今後の課題である。

2-3 逆接連鎖との比較

逆接の複文から連文への書き換えについては、1 で見た問題、すなわち、継起関係にある場合に、「接続詞でつながれる単文連鎖が不自然になる」という現象は起きていないようである。⁵

- (23) そのセールスマンはなおも話しかけてきたが、私はその場を立ち去った。
- (24) そのセールスマンはなおも話しかけてきた。しかし、私はその場を立ち去った。
- (25) たけしくんは、通りの向こうがわに、見なれないポストを見つけましたが、まさか、あんなしかけのあるポストとは知りませんから、ここへ、新しくできたのだらうと考えました。[江戸川乱歩「少年探偵王」]
- (26) たけしくんは、通りの向こうがわに、見なれないポストを見つけました。しかし、まさか、あんなしかけのあるポストとは知りませんから、ここへ、新しくできたのだらうと考えました。
- (27) 男がいきなり斬りかかってきたが、左門は体をひらいて難なくかわした。
- (28) 男がいきなり斬りかかってきた。しかし、左門は体をひらいて難なくかわした。
- (29) われわれは高機能を売り物にしてビジネスをしてきたが、機能は外からは見えない。
[松本孝利 2001 「21 世紀に勝ち残る IT スピード経営」『経済界』]
- (30) われわれは高機能を売り物にしてビジネスをしてきた。しかし、機能は外からは見えない。
- (31) ほとんどのホクロ・黒アザは良性ですが、なかには悪性のものがあります。
[山本博意 2005 「医師による切らない「赤アザ・赤ら顔(浮きでた青い血管)」の最新治療」]
- (32) ほとんどのホクロ・黒アザは良性です。しかし、なかには悪性のものがあります。

(23)(25)(27)は(05)(07)(09)のような継起関係にあるが、対応する、接続詞「しかし」でつないだ連文は不自然にならない ((24)(26)(28))。一方、継起関係にないタイプの、(29)(31)のような「が」による複文についても、接続詞「しかし」でつないだ連文による書き換えが不自然にならない。「原因・理由とその帰結」と「逆接」とのあいだにはこの点で非対称があるということになる。

3. 3つ以上の出来事連鎖をめぐる問題

3つ以上の出来事をどのように（文をつなぐなどして）あらわすか、という点についても、下記のように国語教育の課題として取り上げられている。

- (33) 国立教育政策研究所 全国学力状況調査 [平成 24 年 小学校国語 A-7]

⁵ もちろん、それ以外の各種の問題（「しかし」「けれども」「が、」の選択の問題等）は存する。また、注釈の「が」など、典型的な逆接をあらわさない「が」の複文については本発表では扱わない。

第三小学校の新聞委員の内山さんは、学校の合唱部が活やくしていることを学校新聞の記事に書くことにしました。【学校新聞の記事の一部】の中に、
【取材した内容の一部】の①から④までを一文にまとめて書きます。書き出しの言葉に続く内容を、二十字以上、三十字以内で書きましょう。書き出しの言葉は、字数にはふくみません。

【取材した内容の一部】

- ①合唱コンクールの県大会が、七月一日に開かれた。
 - ②そのコンクールに、第三小の合唱部が出場した。
 - ③第三小の合唱部は、そのコンクールで金賞に選ばれた。
 - ④第三小の合唱部は、来月開かれる全国大会に出場することになった。
- (～メモが続く～)

【記事の一部】

第三の歌声全国へ大会で金賞

七月一日、合唱コンクールの県大会に出場した本校合唱部が

金賞に選ばれ、来月開かれる全国大会に出場することになった。

(記事が続く)

上記学力状況調査の設問は、「情報量を過不足なく盛り込む」等、他の目的も含まれているため、「複数のことがらを、適切にひとつの複文としてまとめる」という課題としてはある程度平易な設問になっているが、現実に上記の課題を全部達成するためには、解答の対象になっていない部分も論点になる。

たとえば、平板に連用形節（あるいはテ形節）を列挙した、

- (34) 合唱コンクールの県大会が七月一日に開かれ、そのコンクールに第三小の合唱部が出場し、金賞に選ばれ（て）、来月開かれる全国大会に出場することになった。

は文法的には誤りとは言えないが、不自然さはぬぐえず、上記の解答のような、

- (35) 七月一日、合唱コンクールの県大会に出場した本校合唱部が金賞に選ばれ、来月開かれる全国大会に出場することになった。

というような適切な形を生み出すための明示的なルール（か、そこまで行かなくても傾向性の記述）がある

ことが望ましい。⁶

このタイプの問題については、上記正解例からも分かるように、(非制限的) 連体修飾節⁷が使われることが多い。大まかに言えば「3つ以上の出来事のうち、時間的に先に起こったことや、相対的な重要度が低いことは、(非制限的) 連体修飾節で表現する(ことが望ましい)。」というようなルールが、そこにはあるのではないか、ということである⁸。このようなケースに連体修飾節が用いられることはユニバーサルに自明なことではなく、たとえば中国語の新聞記事には以下のような例がある。

(36) 2018 年高爾夫美國大師賽當地時間八日在奧古斯塔國家高爾夫俱樂部結束了最後一輪的比賽，美國球員瑞德以低於標準桿十五桿的二百七十三桿總成績獲得最終的勝利，贏得了個人首個大滿貫冠軍，穿上了嚮往已久的綠夾克。

(36)を、構造を変えずに日本語に直訳すれば、概略、

(37) 2018 年全米マスターズゴルフは現地時間八日にオーガスタナショナルゴルフクラブで最終ラウンドを終了し、アメリカのリードが通算十五アンダー二百七十三打で優勝し、初のグランドスラムを獲得し、待望のグリーンジャケットを手にした。

のようになるが、これは日本語の文としてはやはり不自然で、いくつかの手当てをしなければ適切な日本語の新聞の文章にはならない。情報量が多いので、1つの複文にまとめること自体が適切かどうかという問題も若干あるが、その点に目をつぶった場合、より自然な日本語としては、たとえば、

(38) 2018 年全米マスターズゴルフは現地時間八日にオーガスタナショナルゴルフクラブで最終ラウンドを終了し、[通算十五アンダー二百七十三打で優勝した] アメリカのリードが初のグランドスラムを獲得し、待望のグリーンジャケットを手にした。

のように、一部の出来事を連体修飾節として組み込む、ということが行われる。

4. おわりに

部分的なケーススタディであるが、複数の出来事を単文連鎖であらわすか複文であらわすかという問題についての、必要となる論点を提示した。

今後の見通しとしては、2で見た2つの出来事に関する議論は、単文連鎖と複文との互換の問題としてあ

⁶ 適否についての細かい幅はあり得る。たとえば「金賞に選ばれた以上は出場したに決まっているわけだから、「そのコンクールに出場し」は削除してもよいのではないか」等。

⁷ 本発表で対象となっている連体修飾節がすべて非制限的であるかどうかについては一応議論の余地があるが、三好 2018 等を参照し、名詞の定性のいかんによらず、この種の連体修飾節は全て非制限的とみておくほうがよい。

⁸ 本発表では詳細は扱えないが、より高次のルールとしては、「日本語の複文は、並列の連鎖を好まない(複層的な入れ子型を好む)」というものがあり、上記「先に起こったこと、相対的な重要度の低いことを連体修飾節であらわす」というのは、並列の連鎖を回避する手段の一つとして位置付けられることになりそうである。

る程度分析可能であるが、3で見たような3つ以上の出来事連鎖については、多くの出来事をどう並べるか、どこどこをまとめるか、というような、ある種トップダウンの観点が必要になりそうである。扱う単位が多く、大きくなり、情報量も大きくなると、いわゆる作文・文章の創造性の問題ともかかわり、規則性の抽出が難しくなるのは事実であるが、それぞれの言語における規則性・傾向性をできるかぎり抽出し、教育に応用可能なものについては教材化等も目指したい。

※本研究は

科学研究費基盤研究 (C) 19K02700「言語分析力を育成し国語文法力向上に寄与する国語データ駆動型学習教材開発の研究」

科学研究費基盤研究 (C) 20K00596「日本語複文と文連鎖に関する意味論・語用論的研究」の成果を含む。

<参考文献・資料>

北原保雄編 1989『講座 日本語と日本語教育 第4巻 日本語の文法・文体(上)』明治書院

斉藤信浩 2008「因果関係を表さない接続助詞カラの習得 -英語・中国語・韓国語母語話者のデータ比較を通して-」『ことばの科学 (名古屋大学言語文化研究会)』21

白川博之 1995「理由をあらわさない「カラ」」『複文の研究』

野田尚史 1989「真性モダリティを持たない文」『日本語のモダリティ』くろしお出版

橋本修・劉劍 2019「中国語の複文の日本語訳」『中文日訳の基礎的研究』(一) 日中言語文化出版社

馬場俊臣 2006『日本語の文連接表現 -指示・接続・反復-』おうふう

宮島達夫・仁田義雄編 1995『日本語類義表現の文法 (下) 複文・連文編』くろしお出版

三好伸芳 2018『日本語における連体修飾構造と名詞句の内包性に関する研究』筑波大学博士学位論文
国立教育政策研究所 全国学力状況調査 2007～

<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html>

『明鏡国語辞典 (初版第三刷、2003)』大修館書店

「お名詞文」の文法的特徴と敬語表現としての位置づけについて¹⁾

蔡盛植 (高麗大学)

cssshs@korea.ac.kr

本発表では、以下のような「接頭辞『お』+動詞の連用形+コピュラ(繫辞)『だ』」(以下、「お名詞文」)を取り上げ、その文法的特徴と敬語表現としての位置づけについて考察するとともに、日本語学習者を対象とした敬語教育への積極的な導入を提案する。

(例1) 何時にお帰りですか。

いつまでお泊まりですか。

上記の(例1)は、日常会話の場面で頻繁に登場する敬語表現であることに異論の余地はない。ところが、これまでの日本語教育の現場でこうした敬語表現についての教育が十分に行われてきたとは言い難く、その背景には、下記のように、「お名詞文」の特殊な文法的振る舞いや、従来の敬語教育における学習項目の偏りがあると考えられる。

第一に、当該表現は、意味機能的には「動作の継続状態の意味」を表すとされ、尊敬語形式である「お～になる」に相当する敬度が認められると言われている。ちなみに、アスペクティックには動作状態の継続の意を表すことが多い。

(例2) お客さんがなかでお待ちです。

→お待ちになっています

名詞文の形をしている当該表現がアスペクティックの特徴を含んだ動詞文相当の意味になることや、同等の敬意を持つとされる「お～になる」の代わりに選択される理論的根拠などは、学習のハードルが高いと言わざるを得ない。

第二に、これまで日本語教育の現場で行われてきた敬語教育は、主として「お～になる」に代表される尊敬語や、「お～する」のような謙譲語、そして「～ます」のような丁寧語などに対し、動詞連用形を用いた作り方、ならびにそれらの使い分けなどに教育の主眼が置かれるあまり、実生活に即した敬語教育が疎かにされている感は否めない。

1) 本発表は「日本語敬語教育への新たなアプローチ」(2019.12,日本語文学83)をもとに加筆・修正したものである。

そこで以下本発表では、「お-連用形-だ」の構造的特徴および文法的振る舞いを明らかにすることで、当の形式に対し、経済性に富んだ有効な敬語表現としての新たな位置づけを試みる。

(以下詳細につきましては、大会当日のPPTファイルをご参照ください)

日韓語の意志形の疑問化から捉え直す意志形の特質

－「意志決定の段階説」を中心に－

文彰鶴（韓国外大）

1.はじめに

日本語と韓国語は、共通して発話時における話し手の意志の発動を表す意志形(シヨウ/-ㄹ-)を持ち、その意志形を疑問化することができる。

(1)意志形

①もう行こう!

②이제 가겠다.

(2)意志形の疑問化

①もう行こうか。

②이제 가겠냐?

管見の限りでは、日韓語の意志形の疑問化及びそれと関連した意志形の特質に関する対照研究は見当たらない。そこで、本発表では、日韓語における意志形の疑問化を対象とし共通点と相違点を分析して、この結果を踏まえて日韓語における意志形の特質を考えることを目的とする。

そのために、(a)意志形の位置づけを行い、(b)意志形の疑問化と関わる言語現象を検討し、(c)森山(1990・2013)の「意志決定の段階説」に基づいて、日韓語における意志形の疑問化と意志形の特質を捉え直してみたいと思う。

2. 日韓語の意志形の位置づけ

2.1 日韓語における文法形式としての「意志形」及びその共通点と相違点

(3)日韓語における意志表現の形式的分類

①専用文法形式：形態論的文法カテゴリーを成す接辞として本来から「意志」を表す形式

・日：シヨウ ・韓：-ㄹ-

②転用文法形式：文法形式ではあるが、一定の条件の下で本来の意味から派生して「意志」を表す形式

・日：スル(1人称主語、意志動作) ・韓：-는다(1人称主語、意志動作)など

③文法化形式：いくつかの形式が結合し、通時的には分析できるが、共時的には分析できない形式であり、全体が一つにまとまって「意志」を表す形式

・日：? ・韓：-을게(요)、-어야지(요)、-어야겠-など

④迂言的構成形式：いくつかの形式が結合し、共時的に分析できる形式であり、全体が一つにまとまって「意志」を表す形式

・日：スルツモリダ、シヨウトオモウ ・-을 것이-、-을 작정이다、-으려고 하다、-고자 하다など

(拙論2017一部改変)

1) 出典のない用例は作例である。

→本発表では、「専用文法形式」のシヨウと-ㄹ-に限って論じる(以下「意志形」)。

○シヨウと-ㄹ-における共通点と相違点

(4)共通点：シヨウと-ㄹ-はともに話し手の「推量」を表すことができる。

①明日は全国的に晴天に恵まましょう。(仁田1991:212)

②내일은 전국적으로 비가 내리ㄹ습니다.

(5) ① John *must* be home by ten.; Mother won't let him stay out any later.

② John *must* be home already; I see his coat. (Sweetser1990:49)

→特定のモダリティ形式が根源的root(あるいは義務的deontic)意味と認知的epistemic意味とに曖昧であるという現象は、様々な言語で見られる。シヨウと-ㄹ-が「意志」のみならず「推量」を表すという現象は、平行的な現象として理解できる(Sweetser1990、Palmer2001、黒滝2019、澤田2018参照)。

(6)相違点：シヨウは「勧誘」を表すことができるが、-ㄹ-はできない。

①今からカラオケに行くんだ。君も一緒に行こう。(日本語記述文法研究会2003:63)

②*지금 노래방 가는데, 너도 같이 가ㄹ다.

→このような相違点はなぜ生じるのだろうか。

2.2 日韓語の「意志形」の現れ方

○日韓語における形態論的文法カテゴリーとしての「文の類型」(拙論2016一部改変)

表1. 日本語における形態論的文法カテゴリーとしての「文の類型」

切れ続き	ムード	テンス	語形	
			普通体	丁寧体
終止	意志	—	つかもう	つかみま <u>し</u> ょう
終止	命令	—	つかめ	
終止	叙述	非過去	つかむ	つかみま <u>す</u>
終止	叙述	過去	つかんだ	つかみま <u>した</u>

表2. 韓国語における形態論的文法カテゴリーとしての「文の類型」²⁾

切れ続き	ムード	語形	
		普通体(해라体)	丁寧体(합쇼体)
終止	命令	잡아라	잡으 <u>ㅂ</u> 시오
終止	勧誘	잡자	잡으 <u>ㅂ</u> 시다 ³⁾
終止	疑問	잡(느)냐/잡(으)니 ⁴⁾	잡 <u>ㅂ</u> 니까
終止	叙述	잡는다	잡 <u>ㅂ</u> 니다

2) 韓国語には普通体に하계体和해체もあり、丁寧体に하오体和해오体もある。しかし、하계体和하오体は現代韓国語においては共通語としてはあまり用いられなくなっているので、対象外とする。そして、해体和해오体は特定の一つの形式がすべての「文の類型」を表したりし、形態論的文法カテゴリーを成しているとは言い難いので、対象外とする(詳細は拙論2016参照)。

3) 한길(2006)などのように丁寧体(합쇼体)における勧誘形の-으십시오を認めない立場もあるが、本発表では임동훈(2011)などと同様に当該形式を認めることにする。前者の立場では、-으십시오から主体尊待の接辞の-으시-が分析できるからだと言うが、それは命令形の-으십시오においても同じことが言えるにもかかわらず、-으십시오にだけ適用しているのは少々問題があると考えられる。そこで、本発表では、-으십시오と-으십시오双方とも-으시-と結合して一つのまとまった形として見なし、両形式を同様に扱って、それぞれを丁寧体(합쇼体)の勧誘形と命令形と認めることにする。

4) -(느)냐と-(으)니は異形態の関係であり、(느)と(으)は任意的形態である(구본관ほか2015参照)。

→日本語の場合、形態論的文法カテゴリーとしての「文の種類」は<意志>と<命令>、<叙述>で構成されている。しかし、「文の種類」に<意志>は含まれているが、<勧誘>(と<疑問>)は含まれていない。

→韓国語の場合、形態論的文法カテゴリーとしての「文の種類」は<命令>と<勧誘>、<疑問>、<叙述>で構成されている。しかし、「文の種類」に<勧誘>(と<疑問>)は含まれているが、<意志>は含まれていない。

○韓国語の<意志>はどのように表されるのか。

韓国語の<意志>は「文の種類」の文法カテゴリー(<叙述>と<疑問>)の前に-겠-という接辞の接続可否によって別の形態論的文法カテゴリーを成している。

- (7)① a. 오늘은 제가 운전합니다. [叙述]
b. 오늘은 제가 운전하겠습니~~다~~. [意志・叙述]
② a. 오늘은 당신이 운전합니까? [疑問]
b. 오늘은 당신이 운전하겠습니까? [意志・疑問]
③ a. 오늘은 네가 운전해라. [命令]
b. *오늘은 너게 운전하겠어라. [意志・命令]
④ a. 오늘은 우리가 운전하자. [勧誘]
b. *오늘은 우리가 운전하겠자. [意志・勧誘]

→韓国語の場合、別に<勧誘>を表す専用文法形式が存在するため、意志形で<勧誘>を表す必要がない。

→日本語の場合、別に<勧誘>を表す専用文法形式が存在しないため、意志形で一定の条件の下で(複数一人称、意志動作)、派生的に<勧誘>を表すことになる⁵⁾。

→日韓語の意志形は、似ているようで異なるところもあるという点に気づく。

→では、日韓語の意志形の疑問化はどうだろうか。

3. 日韓語の意志形の疑問化と関わる言語現象

3.1 対話性の有無

○引用動詞によるテスト⁶⁾

(8)① 行こうか行くまいかと迷っている。(仁田1991: 171)

② *쇼핑하러 가겠~~나~~ 안 가겠~~나~~하고 망설이고 있다.

→引用内容が非対話的であることを示す引用動詞(마요우、망설이다)の埋め込み節として、日本語の意志形の疑問化は自然であるが、韓国語の意志形の疑問化は不自然である。

(9)① *行こうか行くまいかと尋ねた。(仁田1991: 171)

② 쇼핑하러 가겠~~나~~ (안 가겠~~나~~)하고 물었다.

5) このことは、あくまでも日本語の意志形が<勧誘>を表すことができるような環境が揃ったという意味であり、意志形が<勧誘>を表すメカニズムも持ったという意味ではない。日本語の意志形が<勧誘>を表すようになるメカニズムについては森山(1990・1992・2013)などを参照されたい。

6) 日本語における、引用動詞による対話性の有無に関するテストについては、森山(1990)と仁田(1991)などを参照されたい。

→引用内容が対話的であることを示す引用動詞(타즈넬, 묻다)の埋め込み節として、日本語の意志形の疑問化は不自然であるが韓国語の意志形の疑問化は自然である。

→日本語の意志形の疑問化は非対話的であるが、韓国語の意志形の疑問化は対話的であるということがわかる。

○答え方によるテスト⁷⁾

(10)A: 今日、買い物にでも行こうか。

B: #はい、行きます。/#いいえ、行きません。/無応答

→日本語の場合、意志形の疑問化が真偽(Yes-No)疑問文のタイプであるにも関わらず、真(yes)あるいは偽(no)で答えると不自然であり、かえって無応答が自然である(聞き手の応答を求めない、つまり非対話的である)。

(11)A: 이런 조건이라면 받아들이겠니?

B: 네, 받아들이겠습니다./아니오, 받아들이지 않겠습니다。/#無応答

→韓国語の場合、意志形の疑問化が真偽(Yes-No)疑問文のタイプであれば、真(yes)あるいは偽(no)で答えるのが自然であり、無応答は不自然である(聞き手の応答を求める、つまり対話的である)。

→日本語の意志形の疑問化は聞き手に応答を求めないということから非対話的であり、韓国語の意志形の疑問化は聞き手に応答を求めるとことから対話的であると言える。

3.2 主語の人称制限

(12)①雪が降っても、{俺/??あなた/??彼女}は、買い物に行こう。[意志として]

②눈이 와도 {나/??당신/??그녀}는 쇼핑하러 가겠다。[意志として]

→意志形の主語として、日韓語ともに1人称が自然である。

(13)①雪が降っても、{俺/??あなた/??彼女}は、買い物に行こうか。[意志の疑問化として]

②눈이 와도 {??나/당신/??그녀}는 쇼핑하러 가겠습니까? [意志の疑問化として]

→意志形の疑問化の主語として、日本語は1人称が自然であるのに対して、韓国語は2人称が自然である。

3.3 反語解釈の可否

○意志形の疑問化の反語解釈

(14)①돈 많은 너도 안 사는데 내가 사겠나? [反語として]

②??お金持ちのお前も買わないのに、俺が買おうか。[反語として]

→意志形の疑問化で、韓国語は反語として解釈できるが、日本語は反語としては解釈できない。

○意志形の反語解釈

(15)①보통 때도 학교에 안 가는 네가 이런 날 학교에 가겠다! [反語として]

②??普段も学校に行かないお前が、こんな日に学校へ行こう! [反語として]

→意志形で、韓国語は反語として解釈できるが、日本語は反語としては解釈できない。

表3. 日韓語における意志形の疑問化の特徴

	対話性の有無	主語の人称制限	反語解釈の可否
日本語の意志形の疑問化	非対話的	1人称	不自然
韓国語の意志形の疑問化	対話的	2人称	自然

7) 日本語(特に確認要求文)における、答え方による対話性の有無に関するテストについて、安達(1999)などを参照されたい。

→日本語の意志形の疑問化における対話性の有無は、主語の人称制限と反語解釈の可否とどのような関係を持つだろうか。

4. 「意志決定の段階説」による日韓語の意志形の疑問化と意志形の再解釈

表4. 森山(2013)による「意志決定の5段階」⁸⁾

	内容	日本語の形式	場面例
①流動的な意志形成	・動作をするかどうか自体がまだ決定されていないことを表す	シヨウカ	提案、迷い
②(≒①) 暫定的な意志決定	・思いつきとしての意志の暫定的決定を表す ・発話現場で仮に動きの発動(動作をすること)を決定した	スルカ	思いつきなど
③意志形成中	・動作をするという方向への判断の形成の過程を表す ・思考のプロセスを表す	シヨウ	決心中、誘い
④(現場)意志決定	・自分の意志としてすでに決めたこと(いわば確実な予定)を表す ・発話の現場での意志決定を表す	スル	決意伝達
⑤決定後長期記憶	・自分の意志としてすでに決めたことを表す ・記憶された意向(意図)として表す	スルノダ スルツモリダ	意志の説明 意図存在

→森山(2013)の「意志決定の5段階」に基づいて、日韓語の意志形の疑問化と意志形の特徴を検討する。

○日本語の意志形の疑問化が非対話的であり、1人称主語に限定されるというのは、日本語の意志形が「意志形成中」であることを裏付ける現象である。

→日本語の意志形が「意志形成中(話し手の思考のプロセス)」を表すということは、話し手にとって自分の意志が自明ではないことを意味する。

→一種の鏡像現象のように、話し手の意志が自明でないことを示す形式を用いて聞き手の意志に対して疑問化しても確実な答えが得られない(と想定する)から、聞き手の意志を疑問化する意義がないのである。

→日本語の意志形の疑問化は、聞き手に届かず、話し手自身に戻ってくるという意味的な特徴を反映して統語的に非対話的であり主語が1人称に限定されることになったと考えられる⁹⁾。

→さらに、日本語の意志形は、話し手の意志が自明でないことを意味するから、逆の判断内容をより強く強調するための反語にはふさわしくない。そこで、日本語の意志形の反語解釈は不自然となったと考えられる(もう一つの鏡像現象として日本語の意志形の疑問化も反語解釈が不可能となる)。

○韓国語の意志形の疑問化が対話的であり、2人称主語に限定されるというのは、韓国語の意志形が「意志決定済み」であることを裏付ける現象である。

→韓国語の意志形が「意志決定済み」を表すということは、話し手にとって自分の意志が自明であることを意味する。

→一種の鏡像現象のように、話し手の意志が自明であることを示す形式を用いて聞き手の意志に対して疑問化すると確実な答えが得られる(と想定する)から、聞き手の意志を疑問化する意義があるのである。

→韓国語の意志形の疑問化は、聞き手に届くという意味的な特徴を反映して、統語的に対話的であり主語が2人称に限定されることになったと考えられる。

→さらに、韓国語の意志形は、話し手の意志が自明であることを意味するから、逆の判断内容をより強く強調するための反語にふさわしい。そこで、韓国語の意志形の反語解釈は自然となったと考えられる(もう一つの鏡像現象として韓国語の意志形の疑問化も反語解釈が可能となる)。

8) 表4は、森山(2013:215)の(58)であるが、「内容」の部分は発表者が森山(2013)をまとめて付け加えたものである。

9) 日本語の意志形が「意志形成中」を表すという点は、森山(1999・2013)と同じである。ただし、一種の鏡像現象としての解釈は本発表での新たな分析である。

5. おわりに

本発表では、日韓語の意志形の疑問化を対象とし、いくつかの言語現象を検討した。その結果を日韓語の意志形と関連づけながら森山(2013)の「意志決定の段階説」から捉え直すと日本語の意志形は「意志形成中」を表し、韓国語の意志形は「意志決定済み」を表すと考えられる。

<参考文献>

- 安達太郎(1999)『日本語疑問文における判断の諸相』くろしお出版
- 黒滝真理子(2019)『事態の捉え方と述語のかたち-英語から見た日本語-』開拓社
- 澤田治美(2018)『意味解釈の中のモダリティ(上)』開拓社
- 仁田義雄(1991)「第五章 意志表現の疑問化」『日本語のモダリティと人称』ひつじ書房、pp.165-183
- 日本語記述文法研究会編(2003)『現代日本語文法4 第8部 モダリティ』くろしお出版
- 文彰鶴(2016)「文の類型に関する日韓対照研究-形態論的レベルを中心に-」『日本言語文化』37、韓国日本言語文化学会、pp.137-152
- 文彰鶴(2017)「意志表現に関する日韓対照研究-文法形式と文法化形式を中心に-」『日本言語文化』41、韓国日本言語文化学会、pp.151-171
- 文彰鶴(2018)「日韓語における意志形の疑問化について」『韓国日本言語文化学会2018年度春季国際学術大会発表論文集』pp.49-54
- 森山卓郎(1990)「意志のモダリティについて」『阪大日本語研究』2、大阪大学文学部日本学科、pp.1-19
- 森山卓郎(1992)「日本語における「推量」をめぐって」『言語研究』101、日本言語学会、pp.64-83
- 森山卓郎(2013)「第9章 日本語の意志のモダリティ・再論」沿道喜雄(編)『世界に向けた日本語研究』開拓社、pp.201-217
- 구본관·박재연·이선운·이진호·황선엽(2015)『한국어 문법 총론 I-개관, 음운, 형태, 통사-』집문당
- 임동훈(2011)「제5장 문장의 유형」『7인의 젊은 학자들이 본 한국어의 통사론의 현상과 이론』태학사、pp.225-265
- 한길(2005)『현대 우리말의 반어법 연구』역락
- 한길(2006)『현대 우리말의 형태론』역락
- Changhak, Moon 2018 A comparative analysis of the interrogation of volitional forms, *Information*. 21-9
Tokyo: International Information Institute. 2211-2224
- Palmer, F.R. 2001 *Mood and Modality Second Edition*. Cambridge: Cambridge university Press.
- Sweetser, Eve E. 1990 *From etymology to pragmatics; metaphorical and cultural aspects of semantic structure*. Cambridge: Cambridge university Press.
- *本発表は、拙論(2018)を大幅に改訂したものである。

ハ行子音歴史的資料としての『唐音譜』

— 福州音を中心に —

蔣 垂東（文教大学）

1. はじめに&資料紹介

ハ行子音の変遷が日本語音韻史の最も重要な変化の一つである。室町時代末期まで唇音だったハ行の子音は、江戸時代に入ってから、唇音から喉音へと変化が進んでいったが、その進行の度合いには地域的な差が見られることは有坂(1938)によって明らかされている。有坂(1938)は、京都辺りにおけるハの頭音は寛文頃(1661~1673)には既に完全な ha になっていた可能性が高いが、長崎あたりの方言では、それより遥か後(18世紀前半)までも唇音を保存していたと指摘している。森(1991)は18世紀前半の長崎方言のハ行音の子音は、ハのみならず、ハ行全体で唇音だったとしている。有坂(1938)と森(1991)はともに新井白石の『東音譜』を資料としている。

『東音譜』(享保四年・1719年序)一冊一卷は、新井白石(1657~1725)の著である。内容は片仮名を使って外国語を示すための方法を提案するものである。まずは五十音のそれぞれの音を中国の杭州、漳州、福州、泉州四か所の音と対照させ、次に五十音にない外国の音の写し方を提案している。本発表は、早稲田大学図書館所蔵南畝叢書所収寛政3年[1791]の写本による。

図1

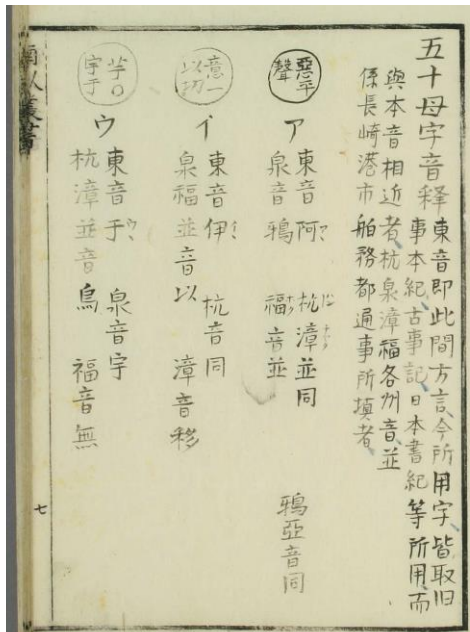
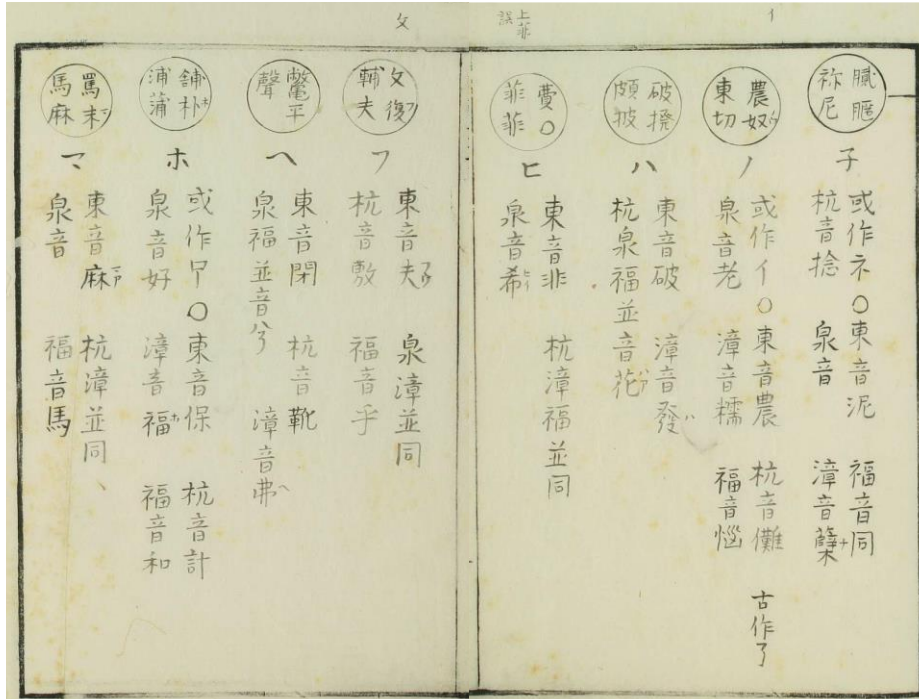


図1が示すように、五十音の対照(五十母字音釈)では、片仮名を見出しに掲げ、その下にこれに対応する「東音」「杭(州)音」「漳(州)音」「福(州)音」「泉(州)音」の音を漢字で示している。凡例によると、「東音」は記紀の「万葉仮名」で、杭州・漳州・福州・泉州は中国の方言音で、「係長崎港市船務都通事所填」とあるように、インフォーマントは長崎にいた唐通事の人達である。漳州と泉州がともに閩南方言に属し、「漳州音」として記載されているものは閩南方言に符合せず、当時共通語の地位にあった南京官話の特徴に一致していることなどから、漳州音は南京音の誤りで、対照に用いられた四種類の漢語方言は杭州、南京、福州、泉州だったということになる。内、南京音は官話、杭州音は呉方言、福州音と泉州音は閩方言である。

2. 先行研究と問題の所在

図2 『東音譜』「五十母字音釈」のハ行音



有坂(1938)と森(1991)は、『東音譜』のハ行音と四種類の中国語方言音との対応関係に着目して、長崎方言の当時のハ行子音の音価を明らかにしようとしている。図2を方言別に並べ替えたのは表1である。

表1 方言別ハ行音に対応する字音

	杭州	漳州(南京)	福州	泉州
ハ	花 曉・合	發 輕唇	花 曉・合	花 曉・合
ヒ	非 輕唇	非 輕唇	非 輕唇	希 曉・開
フ	敷 輕唇	夫 輕唇	乎 匣・合	夫 輕唇
ヘ	靴 曉・合	弗 輕唇	兮 匣・開	兮 匣・開
ホ	訃 輕唇	福 輕唇	和 匣・合	好 曉・開

* 合=合口(uを伴う)、開=開口

表1から分かるように、閩方言系の福州と泉州は喉音系が主流で、輕唇音(f)がほとんど見られないのに対し、非閩方言系の杭州と南京では、輕唇音が主流で、特に南京は全て輕唇音で揃っている。閩方言系と非閩方言系のこうした違いについて、有坂(1938)は「福建系諸方言(=閩方言)にはf音が無い」と指摘した上、「全体として唇音性を帯びたものが多い」と判断して、当時の長崎方言の子音が唇音だった資料の一つとして数えている。

森(1991)は、福州音と泉州音について「ハ行音に対して軽唇音声母字よりも喉音系声母字の方が優勢となっている。ここから当時の閩語は閩南、閩北とも現代音と同様に、f-系声母が存在していなかったものと推測されるものである」と述べ、『東音譜』四種類の方言の内、漳州(南京)音を根幹とすべとの認識を示している。

このように、先行研究の内、有坂(1938)はf音がないと指摘した閩方言の福州音と泉州音は当時の長崎方言のハ行子音の資料になりうるか否かを明言しておらず、「全体として唇音性を帯びたもの」に入れているかどうかは不明である。但し、福州音と泉州音に対する具体的な検討が見られない。森(1991)の場合、全て軽唇音で揃えている南京音のみを資料とし、閩方言を排除している。

福州音と泉州音の内、福州音については現代音の資料のみならず『戚林八音』という18世紀前半に成立した韻書があり、これらの資料を手掛かりに、当時の福州音の実態をかなり具体的に知ることが可能である。本発表では、『戚林八音』および現代福州音の資料を通して、総合的に検討した結果、『東音譜』のハ行に対する福州音も当時の長崎方言のハ行子音が唇音だったことを示すものであるということを明らかにしたい。

3. 福州方言の軽唇音

3.1 『戚林八音』に見る18世紀福州方言の声母体系

乾隆十四年(1750)の序文をもつ『戚林八音』は福州方言の韻書である。福州は古来中国南方南東部福建の政治、経済、文化の中心都市であり、閩劇をはじめ地域芸能が盛んだった。域内の共通語として学習の対象とされていた福州語の韻書はこうした背景で誕生した。『戚参軍八音字義便覧』と『太史林碧山先生珠玉同声』という二冊の学習書より合冊してできたもので、声母については15字からなる歌、韻母については「春花香」と題する33字からなる歌をそれぞれ掲げて、当時の福州方言は15声母と33の韻母、7つの声調だったことを示している。なお、福州方言は、方言の区分上閩方言の一つとされ、かつては閩北方言と呼ばれていたが、現在閩東方言と呼ばれるのが一般的である。

『戚林八音』の15の声母は、以下の通りである。

辺 p 波 ph 蒙 m 低 t 他 th 日 n 柳 l
 争 ts 出 tsh 時 s 求 k 気 kh 語 ɲ 喜 h Ø 鶯

3.2 『戚林八音』と現代福州音声母体系の比較

現代福州方言の声母は次の14個である(陳1998)。

p p^h m t t^h n(l)
 ts ts^h s k k^h ɲ h Ø

『戚林八音』の時代と比べると、相違点は声母の数が一つ減り、nとlが合流したということである。共通点は、軽唇音fがないという点である。

3.3 福州方言の軽唇音

中国語では、中古音の唇音は唐代に重唇音(両唇音 p 系)と軽唇音(唇齒音 f 系)に分裂し、漢語音韻史の重要な変化の一つでとなっている。多くの方言がこの変化に巻き込まれていたが、唯一閩方言は免れている。閩方言は中古期の変化を経ない上古音の化石と呼ばれる所以である。現代福州音では、古い層(白話音)では軽唇音にあたるものは重唇音(p 系)のままになっているが、唐代以降の北方語の影響を反映する読書音(文読音)では、喉音系の h となっている。例えば、非母 f の「飛」は白話では pui、文読音は hi となっている。

f がないので、ハ行音に対する福州音の字音は、長崎のハ行音が喉音だったから喉音の字を選んだ可能性もあれば、軽唇音がないからやむを得ず、喉音を選んだ可能性もあるので、その使用状況について慎重に吟味する必要がある。

3.3 『東音譜』ハ行音に対する「福州音」の分析

『東音譜』においてハ行音に対する福州音の字音についての分析を行う。

ハに対する「花」は麻韻合口二等曉母平声の字で、『戚林八音』も現代福州音も hua である。「哈、蝦、孝、夏」など ha という開口の読みの方が複数あるにも拘わらず、合口の介音 u をもつ「花」を選んだのは唇音性を示す以外適切な説明が得られない。

「ヒ」に対する「非」は微韻合口三等非母平声の字で、『戚林八音』も現代福州音も文読音は [hi] となっているが、上に見た同音の字「飛」が口語音で pui という読みもつことから考えると、喉音と決めつけることはできず、唇音の可能性も排除できない。

「フ」に対する「乎」は模韻開口一等匣母平声の字で、『戚林八音』も現代福州音も hu だが、母音が円唇の狭母音で、唇音性をもつことは明白である。

「へ」に対する「兮」は齊韻開口四等匣母平声の字で、『戚林八音』も現代福州音も全濁声母の匣母が無声化して同じ調音点の曉母 h に合流して、hie となっている。『戚林八音』にも現代福州音に合口の ue, ye のような韻母が存在せず、やむを得ず ie をもつ「兮」を選択した可能性が高い。

「ホ」に対する「和」は戈韻合口一等匣母平声の字で、『戚林八音』も現代福州音も全濁声母の匣母が無声化して同じ調音点の曉母 h に合流して huo となっている。「何、好、耗、賀」など開口の ho という読みの方が複数あるので、口の介音 u をもつ「和」が選ばれたのは唇音性を示すためと考えるのが妥当である。

4. まとめ

『東音譜』のハ行音に対する福州音の字音について考察した結果、福州方言には軽唇音 f をもっていないものの、ハ、ホに対する字音では開口の字があるにも拘わらず、u をもつ合口の字を選んでいる。ヒに対する「非」には唇音の読みもあることから、喉音と安易に決めつけることはできない。「へ」に「兮」は一見して喉音を反映しているように見えるが、福州音には唇音生をもつ音がないということを考えると、～名ずしも喉音であることを積極的に支持する例として見ることはできない。全体的に見て福州音も唇音性をもつ字が多数であることが言える。よって、『東音譜』の福州音も当時の長崎方言のハ行子音が唇音だったことを反映する資

料に加えるべきであることが明らかになった。同じ閩方言の泉州音についても現代音の資料に基づく検証ではほぼ同じ結果が得られるが、『東音譜』と「同時代の資料が現段階でまだないので、慎重に対応する必要がある。

<主な参考文献>

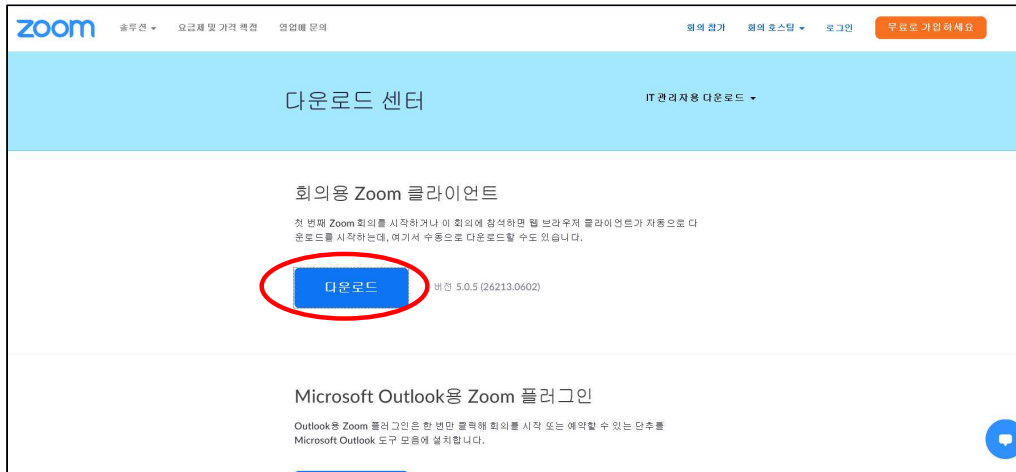
- 有坂 秀世(1938)「江戸時代中頃に於けるハの頭音について」『国語と国文学』昭和13年10月(『国語音韻史の研究増補新版』三省堂、1957年再録)
- 大塚高信訳(1934) ヨイヤード著『日本語文典』坂口書店
- 蔣 垂東(2019)「江戸後期長崎方言のハ行音について—『吾妻鏡補』の国語解を資料に一」
2019年韓国日本言語文化学会秋季国際学術大会
- 新村 出(1928)「波行軽唇音沿革考」『国語国文の研究』昭和3年1月号(『新村出全集』四筑摩書房1971年再録)
- 新村 出(1929)「国語に於けるFH両音の過渡期」『三宅博士古稀記念論文集』(『新村出全集』四筑摩書房1971年再録)
- 趙 元任(1928)『現代吳語的研究』清華学校研究院叢書第四種
- 陳 沢平(1998)『福州方言研究』福建人民出版社
- 橋本 進吉(1966)「波行子音の変遷について」『岡倉教授記念論文集』(『国語音韻の研究』(橋本進吉著作集四)岩波書店、1950年再録)
- 馬淵 和夫(1993)『五十音図の話』大修館書店
- 三澤光博訳(1971)『クルチウス 日本語文典例証』明治書院
- 森 博達(1991)「近世唐音と『唐音譜』」『国語学』166集
- 李如龍 王昇魁(2001)『戚林八音校注』福建人民出版社

<ZOOM 설치방법>

◎ 컴퓨터 노트북의 경우

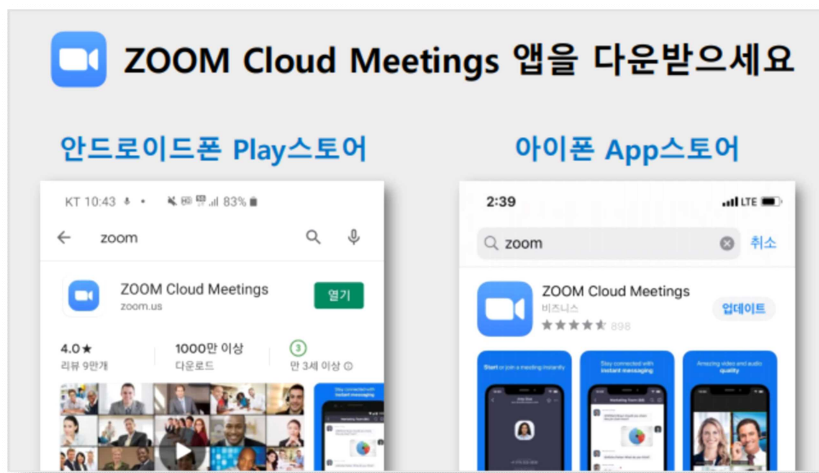
<https://zoom.us/download>

회의용 줌 클라이언트 다운로드를 클릭하여 다운합니다.



◎ 모바일 태블릿의 경우

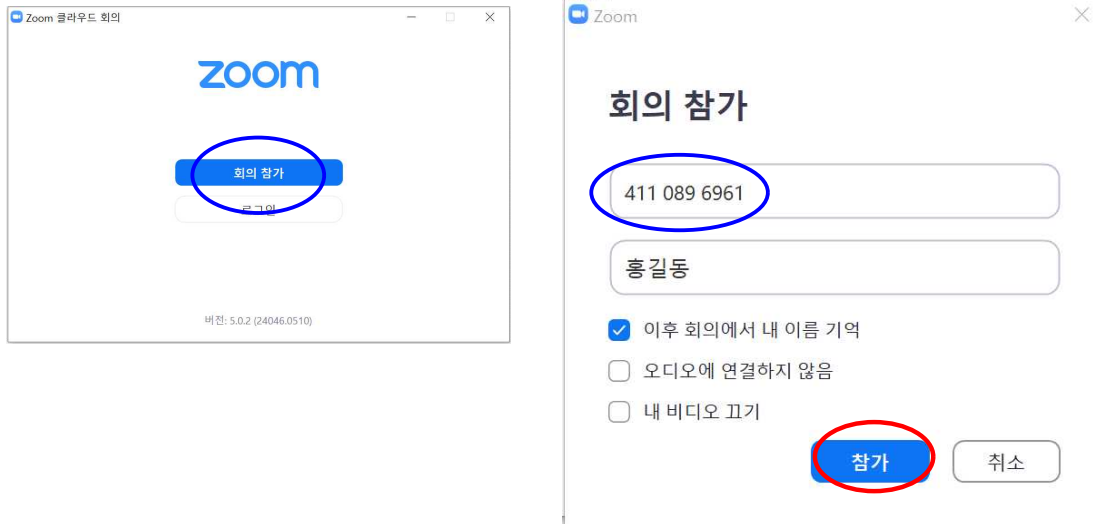
구글 플레이스토어에서 zoom을 검색하여 아래 사진과 같은 어플을 설치하십시오.



ZOOM 회의 참여하실 분들은 가입 필요X

<ZOOM 회의 참가 방법>

◎ 컴퓨터 노트북의 경우



아래 URL에 접속하여 들어가거나,

<https://us02web.zoom.us/j/4110896961?pwd=Nm9yazNQd0tvbIRrTm5ISE4zYjdCQT09>

회의 ID: **411 089 6961** 비번: **436003** 을 입력하여, '참가'를 누릅니다.

◎ 모바일 태블릿의 경우

